

平成 25 年度  
教育行政の執行状況に関する点検評価報告書  
(平成 24 年度事業対象)

夕張市教育委員会

## 目 次

1	はじめに	1
2	点検評価の基本方針	2
3	事業評価の判断基準	3
4	評価委員会の設置	3
5	評価委員会のまとめ	3
6	点検評価の結果	
(1)	安全安心な通学体制の整備	4
	①スクールバス運営 ②遠距離通学支援 ③児童生徒通学安全対策（添乗員の配置） ④小中学校通学費補助 ⑤児童生徒通学安全対策（待合所設置）⑥児童見守りサービス	
(2)	地域全体で学校を支える体制の充実	10
	①学校支援地域本部事業 ②夕張市小中学校サポート会議 ③夕張高等学校対策委員会	
(3)	小・中学校教育の充実	14
	①生徒指導対策 ②ことばの教室運営 ③障がい児教育促進協議会補助 ④総合学習実践 ⑤中学校体育大会開催 ⑥特別支援学級運営 ⑦外国語指導充実 ⑧中 1 ギャップ問題未 然防止 ⑨地域 I C T 利活用広域連携（デジタル教材） ⑩特別支援教育支援員配置事業 ⑪小学校学力向上事業	
(4)	学校施設設備の整備	26
	①小中学校校舎維持補修 ②小中学校教材教具整備 ③小中学校管理業務 ④夕張中学校 体育館落雪対策	
(5)	児童生徒の健康管理及び学校給食の充実	31
	①小学校給食運営 ②中学校給食運営 ③中学校給食業務 ④児童生徒の健康管理	
(6)	幼稚園教育の充実	36
(7)	文化振興	37
	①児童生徒鑑賞教室 ②美術館収蔵品整理事業 ③公民館事業 ④ふるさとギャラリー事業 ⑤生涯学習プロジェクト事業 ⑥文化財保護事業 ⑦図書コーナー事業	
(8)	スポーツの振興	45
	①文化スポーツセンター管理 ②平和運動公園管理 ③体育施設管理 ④清水沢プール管理	
7	資料	50
	・平成 25 年度夕張市教育行政評価実施要綱 ・夕張市教育行政評価委員会設置要綱 ・夕張市教育行政評価委員会実施要綱 ・夕張市教育行政評価委員会開催経過 ・平成 24 年度夕張市教育行政執行方針	

## 1 はじめに

教育委員会は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第27条に基づき、毎年事務の管理と執行状況について点検評価し、その結果報告書を議会に提出するとともに、市民に公表しなければなりません。

本報告書は夕張市教育委員会が行った平成24年度の主な事業について自らが点検評価すると共に、その客観性を確保するため市内の学識経験者で構成する夕張市教育行政評価委員会の評価と意見を付して結果をまとめたものです。

平成24年度は中学校が1校化となって2年、小学校は1校となって1年が経過し、地域の方々との連携と協働を通し、夕張ならではの新しい学校づくりを進めるため、また、幼・小・中・高の学校間連携を進めるために「夕張市小中学校サポート会議」、「夕張市学校連携協議会」や「夕張市特別支援教育連携協議会」の機能を活用し、各学校間の情報の共有化を図ってきたほか、夕張市としてより良い高等学校の在り方、方向性を考えるため「夕張高等学校対策委員会」を設置してまいりました。

また、市民一人ひとりが豊かな文化やスポーツに親しみ、生きがいをもって生活できる生涯学習社会を展望し、文化団体、体育団体、各種市民団体やサークル等と連携し、市民の協力と協働の力により様々な社会教育事業を進めてまいりました。

以下は平成24年度に教育委員会が行った、主な事業8項目についてのまとめです。

### (1) 安全安心な通学体制の整備

市内全域が学校区となったことに伴い、児童生徒の安全安心な通学体制を確保するため、学校、家庭、バス会社、市民ボランティアなどとの連携体制や、バス添乗員の配置、児童見守りシステムなどソフト面の整備充実に努めてまいりました。

今後新たに生じる課題については「夕張市通学方法等検討委員会」の機能を十分に活用し、必要な見直しを行うとともに、通学路の安全確保やバス停車帯など交通安全施設の設置について引き続き関係機関に要望してまいります。

### (2) 地域全体で学校を支える体制の充実

小中学校の1校化による夕張ならではの新しい学校づくりを見据え、地域の教育力を活性化するため夕張市全体で学校を支援する活動や、地域に開かれた学校づくりを進めるため、学校支援地域本部事業の充実に努めるとともに、夕張市小中学校サポート会議については学校と保護者、地域を結び開かれた学校づくりを進めてきました。

また、夕張市としてより良い高等学校の在り方、方向性を考えるため夕張高等学校対策委員会を設置したところであります。

### (3) 小・中学校教育の充実

小中学校1校体制のもと、新しい学校づくりを展望するうえで学ぶことに楽しさや成就感を持ち、基礎的な力を着実に定着させる学習指導と活力に富む諸活動の充実を図るため、小学校における学力向上事業や中学校におけるデジタル教材の活用、中1ギャップ問題未然防止事業、総合的学習実践、外国語指導充実、特別支援教育の充実などの諸事業を進めてまいりました。

### (4) 学校施設設備の整備

教材・教具、学校備品等教育条件整備と校舎の維持補修については、児童生徒の学習活動に支障が生じないよう整備に努めてまいりました。永年の懸案であった夕張中学校体育館の落雪対策については、抜本的な落雪対策のための落雪防護柵設置工事を終了したところであります。

#### (5) 児童生徒の健康管理及び学校給食の充実

児童生徒の健康管理については、学校医や養護教諭と連携し、学校保健法に基づく必要な検査等を行い、疾病の早期発見に努めるとともに、インフルエンザ等感染症については関係機関と連携し感染拡大の予防に努めてまいりました。

学校給食については、児童生徒の発達段階に即した給食の充実を図るため、食に対する指導と実践を通じ、食育の充実と保健所など関係機関と連携し、食中毒など給食事故の未然防止に努めてまいりました。

#### (6) 幼稚園教育の充実

創造性にあふれ、心豊かな子どもの育成のため、小学校、保育園、福祉施設などとの交流や外国語指導助手（ALT）による英語遊び、野菜栽培による食育教育の充実など魅力ある幼稚園づくりに努めてまいりました。また、3・4歳児の混合保育については、幼児の数が減少する中、園児の確保に大きな成果を上げています。

#### (7) 文化振興

市民一人ひとりが心豊かに充実した生活を送れるよう、公民館事業、生涯学習プロジェクト事業、ふるさとギャラリー事業など、市民ボランティアや道教育大学岩見沢校との協働の力を通し生涯学習の機会を提供してまいりました。

また、倒壊した美術館に関わっては収蔵品の今後の利活用のために収蔵品の整理事業を実施いたしました。

児童生徒鑑賞教室については、子ども達の豊かな情操を育む目的で小・中学校において実施し好評を得ております。

#### (8) スポーツ振興

子どもからお年寄りまで、気軽に楽しくスポーツやレクリエーション活動に参加できるよう、各スポーツ施設について利用者の利便性を考慮しつつ合理的な運営に努めました。

また、これらの施設において開催されるスポーツ大会等の実施にあたっては、必要な支援協力を行う中で、スポーツの振興と施設の有効活用を図り、地域活性化の一助ともなっております。

## 2 点検評価の基本方針

### (1) 目的

夕張市教育委員会は、その権限に属する事務の管理及び執行状況を自ら点検評価し、その結果を議会に報告するとともに市民に公表することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民に対する説明責任を果たしていくことを目的としています。

### (2) 点検評価の対象及び方法

点検評価の対象は、平成24年度予算に計上し実施した教育委員会所管の主要な事業とし、その取り組み状況と成果について教育委員会が点検評価を行いました。

### 3 事業評価の判断基準

- 達成度
  - A 事業が十分に達成された（9割以上）
  - B 事業が相当程度達成された（7割～8割）
  - C 事業の達成度がやや不十分である（5割～6割）
  - D 事業が達成されなかった（5割以下）
- 事業効果
  - A 十分な事業効果が得られた（9割以上）
  - B 相当程度の事業効果が得られた（7割～8割）
  - C 事業効果がやや不十分である（5割～6割）
  - D 事業効果が不十分である（5割以下）

### 4 評価委員会の設置

教育委員会が行った点検評価の客観性を確保するため、夕張市教育行政評価委員会を設置し、教育に見識を有する方5名のご意見と評価を頂きました。

- 評価区分
  - A 順調 順調に事業が達成されている（9割以上）
  - B ほぼ順調 概ね順調に事業が達成されている（7割～8割）
  - C 努力を要する 事業の達成度が不十分（7割以下）

### 5 評価委員会のまとめ

財政再建団体となって6年が経過したが、教育行政全般に関わって財政再生計画達成のため、予算の執行について大変な苦労と努力が認められる。

今後においても少子高齢化を含め人口の減少が続くと見込まれるが、現状の夕張市の状況や、地域、市民の状況を的確に把握し、新たな視点から創意工夫により一層の教育行政推進に努めていただきたい。

学校教育関係については、小学校及び中学校の統合が終了して2年と3年が経過し、夕張市全体がひとつの学校区となった今、地域との連携や地域の方々との協働が重要になってきている。学校が地域住民の考えを把握し、地域に開かれた学校を推進していくことで新しい学校作りが確立されると確信するので推進願いたい。また、財政再生中ではあるが、創意工夫をして市民総ぐるみで学校を支える体制の中で、子どもたちが「この夕張の地で生まれ育って良かった」と振り返ることのできるような教育を推進してほしいと思います。

社会教育関係については、事業に係る予算が削減されたままの状況ではあるが、市民ボランティアなどの協力により、生涯学習支援の形が市内全体に浸透してきており、より豊かなまちをつくるために高齢化の進む夕張ではあるが、子どもからお年寄りまで幅広い層の市民が、自らが社会教育事業やスポーツに参加することができるよう、また、歴史ある夕張の文化活動がさらに発展するように文化団体や体育団体、市民サークルなどと連携した事業を推進されるよう願うものであります。

なお、平成24年度教育委員会事業の個別評価及び意見については、4ページ以降の教育行政点検評価表（総括表）に記載しました。



## 平成 25 年度 夕張市教育行政点検評価表（総括表）

事務事業名	1 安全安心な通学体制の整備	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育		
目的及び概要	小・中学校が各1校となった現在、約65%の児童生徒が路線バスなどを利用して通学しているため、事故なく安全に通学できるよう、学校支援ボランティアや市民団体等との連携を強化するとともに、ハード、ソフト両面における安全安心対策の充実を図る。					
平成24年度の主な事務事業名及び決算額	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(1) スクールバス運営	5,044	5,044	0		
	(2) 遠距離通学支援(タクシー運行委託)	1,189	1,027	162		
	(3) 児童生徒通学安全対策事業(バス添乗員)	180	118	62		
	(4) 小・中学校通学費援助(定期券代)	23,172	21,941	1,231		
	(5) 児童見守りサービス	1,260	1,260	0		
事業実績及び効果	別紙(細目) (1)～(5)に記載					
課 題	別紙(細目) (1)～(5)に記載					
今後の方向性	安全安心な通学体制の整備は、小・中学校の統合により生じた事業であり、新たに生じた課題については必要な見直しを行う。 そのため定期的に説明会を開催し、保護者の生の声を聴くとともに、通学に関わる関係者で構成する夕張市通学方法等検討委員会において、課題の共通理解とその対応策について協議を行っていく。					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	本事業は、平成21年度から取り組みを始め、中学校を1校化した平成22年度から運用を開始し、平成23年度の小学校1校化により全面運用している。 ハード・ソフト両面の安全・安心対策についてはほぼ形が出来上がり、大きな混乱もなく順調に進んでいる。 今後事業を進める中で生じる新たな課題は、事業内容を検証しながら必要に応じ見直しを行うと共に、児童生徒の安全・安心の確保を最優先に考え、信号機やバス停車帯の設置などの継続した要望活動を行う。 また、各バス停などにおける学校支援地域本部を中心とした児童見守り体制もある程度確立されてきてはいるものの、ボランティアの高齢化に伴う減少が懸念され、新しい人材確保が必要となる。				
B	A					
評価委員会の評価判定及び意見						
判定	児童生徒の安全安心な通学の確保のため市内各バス停に見守りボランティアを配置するなど、他の市町では実施されていない素晴らしい取り組みが行われている。また、バスの乗車マナーや乗降時の安全指導については、年度当初に添乗員が、学期初めには市教委職員や学校職員が添乗し指導に当たっている。さらに、安全安心な通学体制の確保と円滑なバス運行のため、保護者・学校・バス会社、市教委などの関係者の協議の場である「夕張市通学方法等検討委員会」が設置され、一定の機能を果たしていることも評価できる。バスの安全な乗降や乗車マナーについても、三者の円滑な連携が重要と考える。バス停の位置を変更するなど、児童の安全に配慮した取り組みもあった。今後も通学の安全安心の確保と、より良いバス運行に努めていただきたい。					
B						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・夕張市通学方法検討委員会の設置は妥当と考える。見守りボランティアの方々のご意見や添乗指導した結果について、その都度学校と情報を交換することが指導の徹底につながることから、交流の持ち方について検討を要する。</li> <li>・児童生徒とりわけ小学校1年生の安全安心な通学のため、今後も必要に応じて教職員や市教委職員、ボランティアによるバス添乗が必要である。</li> <li>・通学の安全確保のため、バス停の位置や歩道の整備、信号機などの設置について、引き続き関係機関に要請する必要がある。特に冬は除排雪の関係で子どもの安全が確保できないとの声もあり、今後計画的に行っていただければ益々安全安心な体制になると考える。</li> <li>・校外学習の重要性から、スクールバスのより利用しやすい柔軟な運行が求められる。</li> <li>・児童見守りサービスについては、利用者拡大のための方策を講じる必要がある。</li> </ul>						

平成 25 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	1 安全安心な通学体制の整備	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育														
事業項目	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)														
	(1) スクールバス運営	5,044	5,044	0														
事業実績及び効果	<p>○事業実績</p> <p>平成22年度の中学校統合及び平成23年度の小学校統合に伴い、南部地区児童生徒の登校便1便及び富野地区等児童生徒の下校用として5便のスクールバス運行をバス会社に委託している。また、学校行事等に伴う児童・生徒送迎用としても活用している。</p> <p>平成24年度実績</p> <table border="0"> <tr> <td>南部登校便～ゆうばり小学校</td> <td>207日</td> <td>207回</td> </tr> <tr> <td>南部登校便～夕張中学校</td> <td>206日</td> <td>206回</td> </tr> <tr> <td>ゆうばり小学校下校便～富野</td> <td>207日</td> <td>367回</td> </tr> <tr> <td>夕張中学校下校便～富野</td> <td>206日</td> <td>534回</td> </tr> </table> <p>○効果</p> <p>小中学校の1校化により、全児童生徒の約65%がバス通学しているが、円滑な通学を確保するためには、路線バスを中心としながらも、スクールバスの果たす役割は大きいものがある。</p> <p>平成23年度の小学校統合により夕張中学校及びゆうばり小学校に通学する、南部地区の児童・生徒の登校便（下校は路線バス）として、また、富野地区の児童・生徒の下校用（登校は路線バス）として、悪天候時においても確実に運行している。</p>						南部登校便～ゆうばり小学校	207日	207回	南部登校便～夕張中学校	206日	206回	ゆうばり小学校下校便～富野	207日	367回	夕張中学校下校便～富野	206日	534回
	南部登校便～ゆうばり小学校	207日	207回															
南部登校便～夕張中学校	206日	206回																
ゆうばり小学校下校便～富野	207日	367回																
夕張中学校下校便～富野	206日	534回																
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の単独費用で運行委託しているため、安定した財源の確保と、将来的には車両更新のための財源の確保が必要。</li> <li>・スクールバスは路線バスの運行とリンクした運行形態となるため、学校及びバス会社との密な連携を要する。</li> </ul>																	
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールバスを利用する児童生徒の居住地等に大きな変動がない間は、南部地区に居住する児童生徒の登校便として、また、富野地区に居住する児童生徒の下校便として活用する。</li> <li>・スクールバスの運行にあたっては、年間学校行事等を踏まえ、学校及びバス会社との連携を密にし合理的な運行に努める。</li> </ul>																	
教育委員会の自己評価																		
事業達成度	事業効果	平成23年度以降は小学校統合により、路線バスを中心とした通学体制を取っているが、富野地区児童の下校時における若菜ターミナルでの乗換え対策の為に、スクールバスの活用は不可欠なものである。また、小・中学校の行事等における、バスダイヤに縛られない柔軟な運行も期待できることから、今後も安定的かつ継続した事業実施が必要である。																
A	A																	

平成 25 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	1 安全安心な通学体制の整備	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育		
事業項目	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(2) 遠距離通学支援(タクシー運行委託)	1,189	1,027	162		
事業実績及び効果	<p>○事業実績</p> <p>遠距離通学が必要で、路線バスによる通学が困難な特別支援教室等に在籍する児童生徒のためにタクシーを借上げ通学を確保するもの。</p> <p>平成24年度実績</p> <p>登川方面 小学生3名 203日 553回</p> <p>本町方面 小学生1名・中学生1名 204日 381回</p> <p>○効果</p> <p>特別な支援を要する児童・生徒の安全安心な通学のためには必要不可欠な事業であり、悪天候時にも確実に運行されたもの。</p>					
課 題	平成23年度に小・中学校が1校体制となり、通学区域が全市となったことから、特別支援学級等の児童生徒が多方面でのタクシー利用となることが想定されるため、登下校時に必要な台数のタクシーを確実に確保する必要がある。					
今後の方向性	平成23年度より全市バス通学となったことから、特別支援学級に在籍し、路線バスの利用が困難な児童生徒に対しては、市内のタクシー会社と適切な委託契約を結び、児童生徒の実情に合った通学手段を確保する。					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	平成23年度以降は、南部地区を除く旧清水沢小・中学校以外の児童生徒は、路線バスを中心とした通学体制となったが、特別な支援を要する児童生徒については、引き続きタクシーを利用した通学が必要であるため、今後も児童生徒の実情を踏まえた、きめ細かな事業実施が必要である。				
A	A					



平成 25 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	1 安全安心な通学体制の整備	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育		
事業項目	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(3) 児童生徒通学安全対策（バス添乗員）	180	118	62		
事業実績及び効果	<p>○事業実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小・中学校統合に関わる通学方法説明会における保護者からの要望を受け、児童生徒が通学に利用する路線バスに添乗員を毎年度4月から1カ月間配置するもの。</li> <li>・平成24年度は、夕張中学校統合3年目、ゆうばり小学校統合2年目であり、登下校便に7人の添乗員を雇用した。</li> <li>・添乗1回あたりの賃金は750円を予算計上した。</li> <li>・原則として登校時、下校時の路線バスで新1年生が乗車する便に添乗した。</li> <li>・夏休み明けの8月には教育委員会職員により2日間のバス添乗を行った。</li> </ul> <p>○効果</p> <p>バス通学する児童生徒に対し、乗車マナーや安全な乗降方法などを指導することにより、人命に関わるような事故もなく、安全・安心なバス通学に寄与している。</p>					
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・添乗希望者が少なく、継続した人材確保が難しい。</li> <li>・添乗して明かとなった課題を学校や家庭、バス会社にフィードバックし、安全なバス乗車について継続的な指導を行う必要がある。</li> </ul>					
今後の方向性	<p>配置期間については、保護者の意見を参考に乗車の習熟を考慮し毎年度4月の1カ月間としたが、保護者を対象にした通学方法説明会において意見を伺い継続することとする。          なお、今後も保護者等の意見は参考として伺い、その都度見直しは検討していく。</p>					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	<p>添乗員に基本的な公共交通機関の利用方法の指導など、平成24年度は5路線の登下校便に7名の添乗員を配置し、ゆうばり小学校の児童を中心に乗車マナーや安全な乗降方法などの指導を行った。          本事業の実施により児童生徒及び保護者の安全・安心の確保に相当程度の効果があったものと考え、児童・生徒に対する乗車マナー、乗降方法等の指導については、今後も継続的に実施する必要がある。</p>				
B	A					

平成 25 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	1 安全安心な通学体制の整備	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育								
事業項目	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)								
	(4) 小・中学校通学費援助（定期券代）	23,172	21,941	1,231								
事業実績及び効果	<p>○事業の実績</p> <p>学校の再編統合により、徒歩通学が困難な児童生徒が路線バスを利用して通学するために必要な経費を市が負担するもので、小・中学生についてバス定期券を市が一括購入し保護者に現物支給している。</p> <p>平成24年4月当初における通学費給付及び定期券交付状況</p> <table border="1"> <tr> <td>小学生</td> <td>171人</td> <td>9,334,360 円（定期券交付）</td> </tr> <tr> <td>中学生</td> <td>112人</td> <td>12,229,860 円（定期券交付）</td> </tr> </table> <p>※生活保護費受給者については通学費相当分が支給されるため、教育費での市費負担はない。</p> <p>○効果</p> <p>バス定期券については、保護者が指定する自宅から最も合理的なバス停から学校までの定期券（1年定期）を、市がバス会社との契約により一括購入し、個々の保護者に交付しているため、合理的かつ確実に児童生徒の通学が保障される。</p> <p>また、定期券の紛失については、1回に限り無償で再発行を行っており、保護者に配慮した対応を行っている。</p>						小学生	171人	9,334,360 円（定期券交付）	中学生	112人	12,229,860 円（定期券交付）
小学生	171人	9,334,360 円（定期券交付）										
中学生	112人	12,229,860 円（定期券交付）										
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>文部科学省のへき地児童生徒援助費等補助金が学校の統合後5年間を限度に約2分の1交付されるが、補助期間終了後は全額市費負担となることから、その財源対策が課題となっている。</li> <li>市が定期券を一括購入しているため、定期券が金券であるとの意識が薄く、定期券の紛失及び乗車時の不携帯が多発しており、その解決が課題となっている。</li> </ul>											
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>義務教育諸学校の再編統合による通学手段の確保は市の責務であり、長期的な事業継続が必要なものであるため、補助期間の延長等について関係機関を通じ国に要望する。</li> <li>定期券の紛失及び乗車時の不携帯については、学校を通じ児童生徒及び保護者に対し継続した周知と指導を行う。</li> </ul>											
教育委員会の自己評価												
事業達成度	事業効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>義務教育諸学校の再編統合による通学手段の確保は市の責務であり、長期的な事業継続が必要なため、今後ともより合理的かつ利便性の高い運用を行う必要がある。</li> <li>通学費援助の方法については、必要額を現金給付する方法と、現行の現物給付の方法があり、どちらも一長一短があるが、通学の統一性と児童生徒の確実な通学を保障するため現行制度を改善しながら継続する。</li> </ul>										
B	B											

平成 25 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	1 安全安心な通学体制の整備	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育																				
事業項目	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)																				
	(5) 児童生徒通学安全対策（児童見守りサービス）	1,260	1,260	0																				
事業実績及び効果	<p>○事業実績</p> <p>小・中学校の再編統合により、バス通学する児童生徒の安全・安心のため、総務省の地域ICT利活用広域連携事業を活用し、ゆうばり小学校に児童見守りシステムを導入し、登下校情報サービスを実施した。また、小・中学生を対象に熊の目撃情報や不審者情報などを保護者の携帯電話等にメールで知らせる一斉同報サービスを合わせて実施した。</p> <p>平成24年度利用実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項 目</th> <th colspan="3">対象児童・生徒</th> <th rowspan="2">利用率</th> </tr> <tr> <th>小学生</th> <th>中学生</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>登下校情報確認サービス</td> <td>175名</td> <td>128名</td> <td>—</td> <td>73.1%</td> </tr> <tr> <td>一斉同報サービス</td> <td>422名</td> <td>131名</td> <td>45名</td> <td>41.7%</td> </tr> </tbody> </table>						項 目	対象児童・生徒			利用率	小学生	中学生		登下校情報確認サービス	175名	128名	—	73.1%	一斉同報サービス	422名	131名	45名	41.7%
	項 目	対象児童・生徒			利用率																			
小学生		中学生																						
登下校情報確認サービス	175名	128名	—	73.1%																				
一斉同報サービス	422名	131名	45名	41.7%																				
	<p>○効果</p> <p>登下校情報確認サービスについては、児童の登下校情報が保護者の携帯電話に送信されることから、保護者の安心感と利便性を高めることができる。</p> <p>一斉同報サービスについても、熊の目撃情報などを速やかに情報発信することにより、保護者のバス停までの出迎え等安全の向上に寄与している。</p> <p style="text-align: right;">【平成24年度 発信件数 14件】</p>																							
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・システムの年間維持経費に約1,200千円程度を要するため、ランニングコストに係る財源確保の検討が必要である。</li> <li>・サービス利用者は、登下校情報確認サービスで対象児童の約75%と比較的高いが、一斉同報サービスでは対象児童生徒の約38%に留まっているため、利用者の拡大が課題となっている。その拡大のためにも、もっと利用利益があるものとするため、一斉同報サービスにおいて、熊や不審者情報のみに限らず、学校での臨時休校等の情報も多く配信していく必要がある。</li> <li>・保護者や児童生徒への利用の呼びかけや、正しい利用、登録法を周知していく必要がある。</li> </ul>																							
今後の方向性	<p>バス通学を行う児童以外の保護者からも、登下校情報確認サービスを希望する者がいることから、今後開催する保護者を対象にした通学方法説明会においてサービスを希望する意向調査を行う必要がある。</p>																							
教育委員会の自己評価																								
事業達成度	事業効果	<p>児童見守りサービスは、安全・安心な通学体制の確保に役立つものであり、今後も利用者の拡大に向けた保護者周知が必要である。また、一斉同報サービスについては、利用が熊目撃情報など利用が限定されているため、今後幅広い情報発信のツールとして活用するための検討が必要である。</p>																						
B	B																							

平成 25 年度 夕張市教育行政点検評価表（総括表）

事務事業名	2 地域全体で学校を支える体制の充実	担当課	教育課	学校教育	社会教育	社会体育
目的及び概要	新しい学校づくりを見据え、地域の教育力を活性化するため、夕張市全体で学校を支援する活動と地域に開かれた学校づくりを進める。					
平成24年度の主な事務事業名及び決算額	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(1) 学校支援地域本部事業	667	635	32		
	(2) 夕張市小中学校サポート会議	0	0	0		
	(3) 夕張高等学校対策委員会	0	0	0		
事業実績及び効果	別紙（細目）（1）～（3）に記載					
課 題	別紙（細目）（1）～（3）に記載					
今後の方向性	<p>現在当市は、小学校・中学校・高等学校が各1校となり、市全体で学校を支える体制を確保する必要がある。</p> <p>そのため、学校支援本部事業については継続した事業展開が必要であり、特に児童生徒の安全安心対策として登下校の見守り活動と、環境整備の補助、読み聞かせ活動などの充実を図るとともに、各学校から要請のあったものについても対応していく。</p> <p>また、夕張市小中学校サポート会議については、学校が保護者や地域住民の意向を把握し、学校運営に反映させるとともに、学校に関する情報を積極的に地域に発信していくこと、また、地域の協力を得て学校を運営するために設置したものであるが、この機能を十分に活用し、地域に開かれた学校づくりを進める。</p> <p>夕張高等学校対策委員会については、平成25年度以降も引き続き夕張高等学校の存続及び入学生募集間口の確保について、夕張市としてより良い方向性を考えるため当委員会を開催し、北海道教育委員会への働きかけを行っていく。</p>					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	<p>平成23年度の小学校の統合により、現在は小学校、中学校、高等学校が各1校となった今、それぞれの学校を地域全体で支援していく体制が必要であり、学校、保護者、地域、ボランティアが一体となって新しい学校づくりに力を傾注しているところである。</p> <p>学校支援地域本部事業では、多くの市民ボランティアの協力により大きな成果を上げているほか、夕張市小中学校サポート会議や夕張高等学校対策委員会においては、学校、保護者、地域が一体となり、夕張市にとってより良い学校、開かれた学校づくりに寄与している。</p>				
B	B					
評価委員会の評価判定及び意見						
判定	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども間の学力の差が非常にあるとの話も聞くことがあり、喫緊の課題であると考え。放課後学習会のようなものがあれば良い。バス時間等により放課後が厳しい状況であれば、夏、冬休みなどに実施できないかなど、子どもたちの足の確保も含め検討する必要があるのではないかと。</li> </ul>					
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口減、高齢化により学校支援ボランティアの確保が今後危惧される、地域、学校、教育委員会がもっと情報の共有化を諮る必要があるのではないかと。</li> <li>「いじめ」の問題については学校も努力していると思うが、実態把握、対策指導について学校と教育委員会の連携が必要であり、早期発見、早期対応が望まれる。</li> </ul>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの数が減少しているが、将来を担う子どもたちのため、夕張高校の廃校問題が起きる前に市民一丸となって危機感を持ち考える必要がある。</li> </ul>						

平成 25 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	2 地域全体で学校を支える体制の充実	担当課	教育課	学校教育・(社会教育)・社会体育		
事業項目	項目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(1) 学校支援地域本部事業	667	635	32		
事業実績及び効果	<p>平成22年度に中学校が1校に統合したのに続き、平成23年度には小学校も1校になったことから、本事業は全市にまたがる支援活動を行うための活動を展開している。また、平成23年度から市内全児童生徒の約65%がバス通学になったことから、登下校時の安全指導、バス停での見守り体制を充実させた。</p> <p>さらに、昨年度に引き続き外部講師を招いての学習会を開催するなど、ボランティアの質の向上及び養成のための活動も継続している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本の読み聞かせ 58回</li> <li>・学校行事への参加・参観 3回</li> <li>・清掃活動(草刈) 1回</li> <li>・ボランティア学習会の実施 1回</li> <li>・登下校時の安全指導 208回 (学校支援ボランティア「見守り隊」 87名)</li> <li>・授業(昔遊び体験)の補助 1回</li> <li>・授業参観 3回</li> </ul>					
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市教委と市民ボランティアとの調整役として、コーディネーターの役割が非常に大きい が、今のコーディネーターが辞めた場合の代替りの人材を探すのが困難な状況である。</li> <li>・各バス停等に配置されている「見守り隊員」が、各路線によって人数・参加頻度がまちまちであり、中には離れた場所から毎日車で来ていただいているバス停もある。</li> <li>・放課後学習会が実施できていない。</li> <li>・ボランティアの高齢化。</li> </ul>					
今後の方向性	<p>小・中1校体制のもと、地域全体で学校を支える体制を確保するため、継続した事業展開が必要であり、特に児童生徒の安全安心対策として通学の見守り活動の充実を図る必要がある。</p> <p>また、学力向上のための放課後学習会活動の再開が望まれる。</p>					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	<p>平成22年度の小学校に続き成23年度から小学校の校区が市内全域になったことから、全市的な支援活動としての意味合いが、より強いものとなった。</p> <p>平成23年度からは、全児童生徒の約65%がバス通学を開始することになったことから、登下校時の安全指導・バス停での見守り活動が今まで以上に重要なものとなり、ボランティアの存在もより大きなものとなっている。</p> <p>本の読み聞かせ、学校行事への参加、環境整備活動等は、非常に有意義なものであり、今後も力を入れていきたい。</p>				
B	A					



平成 25 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	2 地域全体で学校を支える体制の充実	担当課	教育課(学校教育)・社会教育・社会体育	
事業項目	項目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)
	(2) 夕張市小中学校サポート会議	0	0	0
事業実績及び効果	<p>学校が地域住民の考えを把握し、学校運営に反映させるとともに、地域の協力を得て学校を運営することを目的に、平成23年9月、地域住民の代表で構成する「夕張市小中学校サポート会議」を立ち上げた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に開かれた学校づくりを進める機能。</li> <li>・教育活動の成果を診断・評価する学校評価を行う機能</li> <li>・学校評価の内容を保護者と地域に公表する機能。</li> <li>・委員数 16名（内学校評価委員6名）</li> <li>・平成24年度会議開催数 2回（6月、2月）</li> </ul>			
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後地域的、年齢的にバランスのとれた委員の安定的な確保と会議機能の充実が課題となる。</li> </ul>			
今後の方向性	<p>地域と学校のパイプ役としてのサポート会議の機能を十分に活用し、地域総ぐるみで学校を盛り立て、夕張ならではの特色ある学校づくりに取り組む。</p>			
教育委員会の自己評価				
事業達成度	事業効果	<p>平成23年9月に立ち上げた夕張市小中学校サポート会議については、小中学校統合により広域な本市が一つの学区となり、保護者のみならず地域住民の意向を的確に把握すること、また、学校に関する様々な情報を地域に発信し様々な意見を吸い上げる新しい学校づくりに一定の効果を果たしている。今後この機能を更に充実させ、地域に開かれた夕張ならではの学校づくりを進めることが必要である。</p>		
B	B			

平成 25 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	2 地域全体で学校を支える体制の充実	担当課	教育課	(学校教育)・社会教育・社会体育		
事業項目	項目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(3) 夕張高等学校対策委員会	0	0	0		
事業実績及び効果	<p>平成24年11月2日、夕張市内の生徒の減少を踏まえた、北海道夕張高等学校の今後の在り方について、夕張市としてより良い方向性を考えるため「夕張市高等学校対策委員会」を設置した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夕張高等学校の現状と将来の生徒について、認識の共有化を図る。</li> <li>・北海道における小規模高校の現状と課題について、認識の共有化を図る。</li> <li>・夕張高等学校の将来的なあり方について検討を行う。</li> <li>・夕張高等学校のより良い形での存続に向け、必要に応じ関係機関に要請を行う。</li> <li>・委員数 14名</li> <li>・平成24年度会議数 2回（12月、2月）</li> </ul>					
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夕張高等学校の入学生募集間口の減少</li> <li>・今後の夕張中学校卒業生の進路動向</li> <li>・北海道教育委員会への要望</li> </ul>					
今後の方向性	<p>平成25年度以降も引き続き夕張高等学校の存続及び入学生募集間口の確保について、夕張市としてより良い方向性を考えるため当委員会を開催し、北海道教育委員会への働きかけを行っていく。</p>					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	<p>平成24年11月に立ち上げた夕張高等学校対策委員会については、人口がピークであった昭和35年には6校あった高等学校が現在は1校となり、平成24年度の夕張高等学校への入学生の間口は1間口となったことで、今後の夕張高等学校の存続について市民が危機感をもっていることから、将来を担う子どもたちのためにより良い形での存続について、市民一丸となって協議を行っている。</p>				
B	B					

## 平成 25 年度 夕張市教育行政点検評価表（総括表）

事務事業名	3 小・中学校教育の充実	担当課	教育課(学校教育)・社会教育・社会体育	
目的及び概要	小中学校1校体制のもと、地域との連携と協働による新しい学校づくりを進め、地域や学校、児童生徒の実態に応じた教育課題を明らかにし、主体的に学ぶことのできる教育内容の充実を図る取り組みを通じ、児童生徒の基礎学力の向上を目指す。			
平成24年度の主な事務事業名及び決算額	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)
	(1) 生徒指導対策	400	400	0
	(2) ことばの教室運営	188	178	10
	(3) 障がい児教育促進協議会補助	220	220	0
	(4) 総合的学習実践	296	294	2
	(5) 中学校体育大会開催	940	760	180
	(6) 特別支援学級運営	252	248	4
	(7) 外国語指導充実(人件費を除く)	976	697	279
	(8) 中1ギャップ問題未然防止	142	63	79
	(9) 地域ICT利活用広域連携事業(デジタル教材活用)	16,766	15,267	1,499
	(10) 特別支援教育支援員配置(小学校)	1,365	1,044	321
(11) 小学校学力向上事業	179	170	9	
事業実績及び効果	別紙細目(1)～(11)に記載			
課 題	別紙細目(1)～(11)に記載			
今後の方向性	<p>学ぶことの楽しさや成就感をもち、基礎的な学力を確実に定着させる学習指導を行うとともに、体験的な学習や総合的学習の充実を図る。</p> <p>また、学習、学力の向上を図るため、個々の児童生徒の状況を把握し、特別教育支援員の配置継続やデジタル教材の活用により学習への関心を高めながら、基礎学力の向上につなげていく。</p>			
<b>教育委員会の自己評価</b>				
事業達成度	事業効果	<p>現在の子どもたちには、特に、小1プログラム、中1ギャップ、高1クライシスと呼ばれる学校間の接続に関わる問題も多くあるが、「夕張市学校連携会議」や「中1ギャップ問題未然防止事業」などを行うことにより問題解決に効果を上げている。</p> <p>また、個性の異なる子どもたち一人ひとりを大切に、それぞれの個性を伸ばす取り組みについて、障害を持つ子どもを大切に育てる教育、児童生徒が自発的かつ横断的に学習する総合学習の充実、幼稚園や小学校における外国語活動などの事業の充実を図った。</p>		
<b>B</b>	<b>B</b>			
<b>評価委員会の評価判定及び意見</b>				
判定	<p>小学校は統合2年目、中学校は3年目となった。多くの児童生徒が学び合う良さを生かし、特色ある教育を推進している。学校支援地域本部事業などを活用した外部講師による授業、教育委員会が主催・後援する行事も教育効果を上げている。また、生徒指導の充実と学力向上のために支援員が配置され、児童生徒の実態に合わせ有効に活用を図っている。ことばの教室運営について、通級の幼児・児童が増加する中、その必要性はますます高まっている。特別な支援を必要とする子どもの増加が見込まれることから、支援員・介助員の増員が必要である。また、幼保小中高、養護学校の連携を強化し、指導方法・内容など共有し、互いに役割を自覚し、補完しながら教育活動を推進する体制の構築が重要である。</p>			
<b>B</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽発表会に幼稚園が参加したことは評価できる</li> <li>・ことばの教室(母子通園センター)の機能を十分に発揮し、子どもの様子を親が正確に抑えていないことへの正しい就学指導の充実を図る必要があり、市内的な取り組み、支援計画の整備、充実が求められる。</li> <li>・障がいを持つ児童生徒の自立と社会参加を促すために、宿泊学習や集合学習は有効である。特別支援教育について、保護者・地域の理解と協力を得るための取り組み、夕張高等養護学校との連携の強化が必要である。</li> <li>・支援員、介助員の増員が必要である。</li> <li>・ことばの教室(母子通園センター)の運営に関して、指導員の専門的知識などを向上させるため、十分な研修を保証するための予算措置について検討する必要がある。</li> <li>・災害時における避難訓練や防災教育はこれまで以上に必要性を増している。併せて、異常気象警報などに対する対応など、学校と保護者、地域が共通認識を持つ必要がある。市全体のハザードマップの作成、警報発令時の対応などについては教育委員会だけでなく、行政全体で十分に検討することが大切である。</li> </ul>				

平成 25 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	3 小・中学校教育の充実		担当課	教育課 (学校教育)・社会教育・社会体育		
事業項目	項 目			予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)
	(1) 生徒指導対策			400	400	0
事業実績及び効果	<p>1 開催事業名 第55回 夕張市音楽発表会                  2 主催団体 夕張市教育委員会、夕張市教育研究協議会                  3 共催団体 夕張市音楽協会</p> <p>音楽発表会は、本市の児童生徒の健全育成及び文化活動の一環として、日頃の教育活動の成果を広く市民に示す場であると共に、小・中・高等学校間さらに保護者をはじめ地域住民との実態交流の場として位置付けている。</p> <p>また、小・中・高校が一堂に会しての音楽の祭典としては、半世紀の歴史と伝統があり、地域住民も親しみやすいことから、夕張市音楽協会加盟団体との連携・協力の体制ができ、地域の文化の向上と振興を考えるうえで大きな成果が得られたと考える。特に、市内の児童生徒にとって、市内のそれぞれの文化団体の発表を直接目にする事は、学校教育活動に大きく反映されることを期待される。</p> <p>今回は高校が行事と重なり参加できなかったが、幼稚園が初参加することができた。また、会場を文化スポーツセンターへ変更したが、昨年の課題であった、楽器の搬入や生徒用のバスの運行はスムーズに行えた。参加団体の協力により会場設営や撤収もスムーズに行えた。</p> <p>期 日 平成24年10月20日（土） 午前8時45分～午前12時00分                  場 所 ゆうぱり文化スポーツセンター                  参加対象・幼稚園—ユーパロ幼稚園 園児数：27名                  ・小学校—ゆうぱり小学校 児童数：285名                  ・中学校—夕張中学校 生徒数：173名                  ・夕張市音楽協会参加団体 5団体                  補助対象：児童生徒の移動交通費及び楽器運搬費用等として40万円を補助している。</p>					
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会場が大きく音響設備も整っていないため、今後は反響盤を設置していかななくてはならない。</li> <li>・ピアノが調律できず、電子ピアノを使用したため来年度はピアノを使用したい。</li> <li>・暖房が利かず寒い中での開催だったため、暖房は必須である。</li> <li>・観客席に優先席を設ける必要がある。</li> <li>・一般来場者用のプログラムの設置場所を明確にする必要がある。</li> </ul>					
今後の方向性	<p>市内の児童生徒の健全育成及び学校教育、特に児童生徒の情操教育の一翼を担う行事として位置づけ、生涯学習に基づく文化活動として長く活動されている夕張市音楽協会との連携を図ることにより、市民参加（児童生徒から大人まで）の活動としてより一層の発展が期待される。</p>					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	<p>市内児童生徒の健全育成及び情操教育の一翼を担う行事であり、夕張高校吹奏楽部や夕張市音楽協会との連携など、学校間連携の推進や文化振興事業としての側面も持つ事業である。本市の教育振興の観点からも、継続した事業展開が必要といえる。</p>				
B	A					

平成 25 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	3 小・中学校教育の充実	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育		
事業項目	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(2) ことばの教室運営（人件費を除く）	188	178	10		
事業実績及び効果	<p>○通級児数 ・児童28名（構音の誤り、言語発達の遅れ、吃音等） ・幼児20名（構音の誤り、言語発達の遅れ、広汎性発達障がい・傾向、運動発達の遅れ、吃音等）</p> <p>○教育相談の実施 保護者の悩みを随時間き取ることで、育児に対して前向きに取り組むように促すことができた。</p> <p>○保護者面談の実施（随時） 家ではわからないこどもの様子を伝え、指導者と保護者での相互理解に繋がった。また、父親の面談も増えており、夫婦協力での子育てのきっかけに繋がった。</p> <p>○ケース会議の実施（教育長、アドバイザー、学級担任、保健師、家庭児童相談員等出席） 学期初めに提出する指導経過報告書を通して、指導目標・指導経過・問題点・反省点・保護者への対応・今後の課題等について話し合い、各々の役割での連携強化に努めた。</p> <p>○専門発達相談事業、運動発達訓練、道立施設専門支援事業の実施。 知的、発達、行動、学習面や集団活動、運動発達面で訓練を必要とする気になる児童・幼児の発達評価、診断、保護者の助言を行い、それをもとに園生活等を通して指導内容を検討することができた。</p> <p>○学校・幼保育園訪問（年2回） 通級している子どもだけでなく、それ以外のこどもの検査・助言等も行った。</p> <p>○文集の作成と教室便り（年12回）の発行 各関係機関の連携と地域への啓蒙を図る活動とすることができた。</p> <p>○母親教室の実施 気分転換の要素も多く含むが、母親同士の交流により普段話することが出来ない子育ての悩みなどを共有することができた。また、OBの参加によって経験談を聞くことができることも効果的だった。</p> <p>○各行事（夏の体験学習・クリスマス会）の実施。 個別指導が基本のことばの教室にあって、行事を行うことで年齢や学年を越えた相互の働きかけの機会をつくった。また、普段参加することができない通級者の父親も参加することによって親同士の横のつながりをさらに深めることができた。</p>					
課 題	<p>○宿泊学習に関して、参加者の減少と送迎が出来ない等の理由から平成22年度で当該行事の終了を決定したが、代替行事が決定されていない状態。</p> <p>○各行事の繁雑さの軽減と限られたスペースでの指導内容の充実を図ることが急務。</p>					
今後の方向性	<p>○保護者の支援・子どもに必要な的確な指導・他機関との連携に努めていく。</p> <p>○保護者が主体的に活動・啓蒙し保護者同士・子ども同士のつながりを深め親睦を深めていくため、各行事の主権を親の会に移行していく。</p>					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	<p>夕張市ことばの教室は昭和56年に開設以来、ことばに障がいを持つ幼児・児童の療育・指導を行っており、平成6年からは母子通園センターの機能も併せ持つ施設として、肢体不自由・情緒障がい等の幼児に対する療育と情報提供等福祉分野での業務も行っている。市全体の子ども数が減少する中、通級児の数は減少しておらず、本市の障がい児教育における役割は大きなものがある。また、保護者の子育てに対する悩みに対する教育相談や、幼稚園、保育園、関係専門機関との連携の要の役割も果たしているなど、その事業効果は高いものがある。</p>				
B	A					



平成 25 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	3 小・中学校教育の充実	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育		
事業項目	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(3) 障がい児教育促進協議会補助	220	220	0		
事業実績及び効果	<p>障がいを持つ児童の個々の状態に対応した柔軟な教育内容、指導方法等により児童生徒の能力を伸ばす必要がある。本事業は自立と社会参加を目指し、普段の学習では経験することのできない、集合学習や市外での宿泊学習を行うことにより、児童生徒の成長に大きな効果を果たしている。</p> <p>○宿泊学習（札幌市）…7月19日（木）・20日（金）          ○集合学習（1回目）…9月28日（金）          ○集合学習（2回目）…2月26日（火）          以上活動費執行額 220,000円</p>					
課 題	○障がいを持つ児童・生徒に対する理解や協力を、より多くの周囲の人々に共有してもらうための工夫が必要である。					
今後の方向性	○関係者以外の人々が協調し育成の手助けも行えるような仕組みづくりを進めていく。					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	<p>本事業は特別な支援を要する児童生徒の自立と社会参加の一助となるよう、日常普通の授業では経験できない宿泊学習や集合学習を行うための事業であり、児童生徒の発達と成長に大きな効果をもたらしている。</p>				
A	A					



平成 25 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	3 小・中学校教育の充実	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育		
事業項目	項目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(5) 中学校体育大会開催	940	760	180		
事業実績及び効果	<p>学校教育活動として行われる中学校体育大会への、市内中学校生徒及び引率教諭等の派遣に要する旅費等、経費の一部を補助するための事業であり、本市の体育振興に大きな成果が得られたと考える。</p> <p>○南空知大会出場種目 野球、バドミントン、バレーボール、バスケットボール、スキー</p> <p>○全道大会出場種目 相撲、スキー</p> <p>○全国大会出場種目 相撲、スキー</p>					
課題	○各年度の大会の成績や開催地により、事業費に大きな差異が生じるため、各競技のスケジュールや会場等を把握し、支出見込額を抑える必要がある。					
今後の方向性	○事業実施に係る財源が「こども基金」からの繰入れで賄われているため、将来的に財源が枯渇した場合の財源確保を含めた事業の在り方についての検討も必要。					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	生徒が教育活動の一環として行われる大会等に参加するための費用を補助するための事業であり、本市の体育振興のためにも必要性は高く、教育効果も高い事業である。				
B	B					

平成 25 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	3 小・中学校教育の充実	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育		
事業項目	項目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(6) 特別支援学級運営	252	248	4		
事業実績及び効果	<p>夕張中学校における特別支援学級（肢体不自由学級）に通学している生徒の障害は、重度重複障がいであり、骨形成不全（背骨の湾曲による下半身麻痺）・気管切開（痰の吸引を行わなければ呼吸不全に陥る）・経鼻管栄養（鼻から栄養を点滴することにより主な栄養補給をおこなっている）・口蓋裂・難聴・その他等の障がいがあり、日常の学校生活をおくるために学校においても医療行為が必要なため、看護師資格をもった介護員が平成16年度より配置されている。</p> <p>介護員の主たる業務は、サクション・エンシュア・着替え・水分補給・体温管理であり、基本的に別室に待機しており、緊急時には携帯で連絡が取れる状態になっており、通常時には定期的な医療行為及び生活補助行為を行っている。</p> <p>現在、学校教職員の共通理解と介護員の医療行為により、順調に通学することができており、健康面も落ち着いている。</p> <p>平成24年度は中学校3年生となり、自立に向けてキャリア教育の一端としての修学旅行に参加して、同学年の生徒と同じメニューで学習を行うことができた。また、課題であった進路に関しても、本人、家族の意向そして関係機関との協議を経て高等養護学校への進学となった。</p> <p>○介護員勤務時間・賃金 年間154時間 単価1,230/時間</p>					
課題	○特別に支援が必要な児童生徒に応じたサポートや医療が必要なため、その都度慎重に検討していく必要がある。					
今後の方向性	○今後も今回の中学校の特別支援学級（肢体不自由）に在籍する当該生徒のケース同様、就学を保障するために医療行為を行える専門の看護職の配置はもちろんのこと、本事業による介護職員のサポートや、周囲の生徒の理解と協力を得るようにしていく必要がある。					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	本事業は医療行為等介護が必要な特別支援学級に在籍する児童生徒にとって不可欠なものであり、ケア・サポートを受ける児童生徒はもちろん、学校や保護者、周囲の生徒にとっても高い教育効果が認められる。				
A	A					

平成 25 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	3 小・中学校教育の充実		担当課	教育課(学校教育・社会教育・社会体育)		
事業項目	項 目			予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)
	(7) 外国語指導充実（人件費を除く）			976	697	279
事業実績及び効果	<p>学習指導要領の改訂を踏まえ、本市における外国語指導充実のため、外国青年招致事業（JETプログラム）に参加。平成23年7月より委託している外国語指導助手（ALT）を引き続き任用。</p> <p>外国語指導助手（ALT）の円滑な業務遂行を保障するため、日本在住に係る共済費、需要品等、外国語教育・国際理解教育の充実を図るための研修会参加の旅費、JETプログラム参加における負担金等を負担したものの。</p> <p>共済費 雇用保険料：40千円 健康保険料：182千円 厚生年金保険料：299千円</p> <p>旅費 費用弁償：再任用となったため平成24年度の支出はない（0円） 研修旅費：33千円（外国語指導助手指導力向上研修、HAJET定例会議3回）</p> <p>需用費 消耗品費：44千円（授業用）</p> <p>負担金補助及び交付金 外国青年招致事業負担金：97千円（傷害保険、外国青年招致事業人員割会費）</p>					
課 題	○本市の地域性を考慮した生活指導や関わり方等も指導していく必要がある。					
今後の方向性	○本事業は市の園児・児童・生徒さらには市民への国際理解を深めるためには必要不可欠である。また、指導・教育を十分なものにするためには、当該外国語指導助手（ALT）の健康・精神面へのサポートが必要でありそのケア対処法として、研修への参加が重要である。そのため、引き続き研修への参加を勧めネットワーク広げるようサポート・アドバイスが必要である。					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果					
B	A	<p>本市の外国語指導助手（ALT）については、財政破たんの影響により平成19年度から雇用を休止し、空知教育局の支援による外国語指導助手（ALT）の派遣により対応していたが、学習指導要領の改定により、小学校における国際理解教育が義務化され、平成21年度から自前の外国語指導助手（ALT）の採用を復活した。小中学校における外国語教育と小学校における国際理解教育を円滑に進め、児童生徒の教育活動を保障するためには、安定した外国語指導助手（ALT）の雇用が不可欠なものである。</p>				



## 平成 25 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	3 小・中学校教育の充実	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育		
事業項目	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
		(8) 中1ギャップ問題未然防止	142	63	79	
事業実績及び効果	<p>○学校生活アンケートの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ほっと」を活用したアンケートの年3回の実施により、学習や対人関係などの学校環境や家族関係などの学校外環境の多面的な適応感を把握・分析し、その結果を学級経営や教育相談に活用したことで、児童生徒に対するきめ細やかな指導の充実を図ることができた。</li> </ul> <p>○出前授業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校と中学校の接続が円滑に行われるよう、中学校の教員が小学校に出向き、英語の出前授業を行い、新しく履修する教科の不安解消と、児童と教師の人間関係づくりを行うことができた。</li> </ul> <p>○中学校体験入学</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成25年度に中学校に入学するゆうばり小学校の児童を招き、中学校教員から学校生活や施設についての説明を受けるとともに、スクールカウンセラー（石川正人氏）による集団カウンセリングの実施により、中学校入学時の不安やストレスを取り除き、中学校への期待や希望を抱く機会とすることができた。</li> </ul> <p>○教育相談の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学期ごとに教育相談週間を設定し、児童一人一人との個別面談を実施しながら、児童の実態把握に当たった。特に6年生は、中学校進学という観点を含めて相談を実施した。また、北海道教育委員会スクールカウンセラーを招聘して、中学校入学に対する心構えを指導していただいた。</li> </ul> <p>○学校職員・PTA研修会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師の川村道夫氏を招聘し、教員と保護者が子ども達の人間関係づくり能力等の状況について共通理解に立ち、学校と家庭とが連携して児童のコミュニケーションスキルなどを育成するための機会を提供できた。</li> </ul>					
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小・中学校の1校化により、9年間を見通して児童・生徒を育てていくという視点から、小・中学校の教員が常に情報交換し、中学校に入学する前から複数の目で子供たちを見つめる事ができる環境を整える必要がある。</li> <li>・子ども理解支援ツールは、児童生徒の学校適応感を総合的に判断するための有効な手段であり、小学校における児童アンケートや中学校における教育相談カードによるアンケートと併せて活用することにより、子どもたちの社会的スキルの分析結果を小・中学校間で共有し、9年間を見通して育成を図っていく必要がある。</li> </ul>					
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活アンケート（アセス）の内容の工夫による中・低学年への展開</li> <li>・出前授業は、中学校の授業をイメージできるようにするため、各教科等における児童の実態を事前に把握する必要がある。</li> <li>・児童・生徒のコミュニケーションスキルを向上するためのプランを作成するなど計画的な取組とする必要がある。</li> </ul>					
<b>教育委員会の自己評価</b>						
事業達成度	事業効果	<p>本事業は道の委託事業であり、小学校から中学校の接続の問題（中1ギャップ）に対応するための対策を実施するものである。また本市においては、小・中学校の統合により、これまであまり交流のなかった児童生徒が、一つの学校に集まっていることから、子ども達がスムーズに打ち解け、不安なく新しい学校生活を送ることができるよう、様々な事業を実施しており、その効果は非常に高く道の委託事業終了後においても各学校の創意工夫により今後も継続して実施する必要がある。</p>				
<b>B</b>	<b>B</b>					

平成 25 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	3 小・中学校教育の充実	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育		
事業項目	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(9) 地域 ICT 利活用広域連携事業（デジタル教材活用）	16,766	15,267	1,499		
事業実績及び効果	<p>○事業概要 千歳科学技術大学が開発し、千歳市内の小中学校で活用実績のあるデジタル教材・eラーニングシステムをベースに、夕張市・千歳市・栗山町の各学校において、それぞれの興味、レベルにあったデジタル教材を作成、改良することで、一層質の高いeラーニング環境を各市町において効率的に構築するとともに、千歳市で実践しているデジタル教材・eラーニングを使用した授業のノウハウを、夕張市の中学校で実践することにより、夕張市における生徒の学力の向上を図ることを目的に実施。今年度からは広域連携によるノウハウの共有の蓄積、共同利用によるスケールメリットを生かすため新たな連携先、栗山町を加え事業を展開した。</p> <p>○事業効果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICT 機器を活用した授業実践により学習意欲が向上し計画的な自学自習に努めているとのアンケートで「よくできている」、「大体よい」と答えた生徒の割合は39%となっており、対前年度比で1%の上昇にとどまったが、教員を対象とした研修で、参加した教員からは日々の教材研究に費やす時間が減少し、生徒と向き合う時間が増えるだろうとの意見が得られており、学校内の教育力向上に効果的である。</li> <li>・ ICT 支援員の活用や ICT に関する校内研修等の実施により、ICT を活用した授業を実践可能な教員は着実に増加しており、ICT に関する教員の能力も向上しており、ICT 機器を活用した授業実践に取り組んでいる。</li> </ul>					
課 題	<p>今年度、ICT 機器を活用した授業の実施などによるわかりやすい授業に努めているか保護者にアンケートしたところ、前年度の61%から48%へと13%の減少となった、事業開始から3年が経ち、コンテンツや授業内容がマンネリ化していないか検証が必要。</p>					
今後の方向性	<p>今年度をもって、2年間の国の委託事業が終了したが、引き続き千歳科学技術大学のサポートを受け継続的な事業を展開することに加え、小学校でも ICT 教育を実践することにより、学習意欲・学力の向上を図ることとする。</p>					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	<p>ICT 機器を活用した授業の実施により生徒の学習に対する興味・関心は微増ながらも向上しており、本事業の継続により夕張中学校の生徒の学力の底上げが十分期待できるが授業内容やコンテンツのさらなる向上は不可欠と思える。</p> <p>また、ICT 支援員の活用や校内研修の充実により、ICT を活用した授業を実践可能な教員は着実に増えており、ICT 機器を活用した授業実践に取り組んでいる。</p>				
B	B					

平成 25 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	3 小・中学校教育の充実	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育		
事業項目	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(10) 特別支援教育支援員配置（小学校・中学校）	1,365	1,044	321		
事業実績及び効果	<p>【背景・概要】</p> <p>小中学校1校化により、統合校の児童生徒数が大幅に増加し、普通学級においても特別な支援を要する児童（高機能自閉や発達障がい等）が増加している。これらの児童・生徒に対する学習面などの支援体制の確保と、クラス全体の学力の底上げを図ることが課題となった。</p> <p>このため小学校に特別支援教育支援員1名および中学校に特別支援教育支援員2名を配置し、特別な支援を要する児童への指導に極めて高い教育的効果をあげている。また、円滑な学級運営と学級全体の基礎学力の向上にも貢献している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>読み取りが困難な児童に対する黒板の読み上げ</li> <li>書くことが困難な児童に対するテストなどの代筆</li> <li>聞くことが困難な児童に対し担任教諭の話を繰り返し聞かせる</li> <li>対象児童の安全の確認</li> <li>周囲の児童への障がい理解の促進</li> </ul> <p>○普通学級に在籍し特別な支援を要する児童・生徒の割合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小学校 5.8%</li> <li>中学校 8.9%</li> </ul> <p>【予算】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>賃金 1,549,000円（・勤務時間 週5日間1日4時間以内、時給800円、年間10月間）</li> <li>共済費 5,000円（労災保険料）</li> </ul>					
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校および中学校において特別な支援を要する生徒が比較的多数在籍する。</li> <li>支援員は教員免許を持つ者が望ましいが、市内における人材確保が難しい課題がある。</li> </ul>					
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校および中学校に継続的かつ安定的に支援員を雇用し、各学級における障がいを持つ児童の状況を踏まえた効果的な配置を行う。</li> <li>文科省においても支援員を計画的に配置できるよう、平成19年度から地方財政措置を行っており、平成24年度からは更に財政措置が拡充されることから支援員の配置の拡充が必要である。</li> </ul>					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	<p>小・中学校の普通学級に在籍する障がいを持つ（発達障害等）子ども達を適切に支援するためには、教師のマンパワーだけでは支援が困難であり、特に本市は、小中学校の1校化による児童生徒数の増加もあって、特別支援教育支援員の配置は教育上不可欠となっている。平成23年度に小学校に配置した支援員については、LDの児童に対する学習支援やADHDの児童に対する安全確保などの学習活動上のサポートと児童の基礎学力の向上に大きな成果をあげている。</p>				
B	A					

平成 25 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	3 小・中学校教育の充実	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育																				
事業項目	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)																				
	(11) 小学校学力向上事業	179	170	9																				
事業実績及び効果	<p>市内小学校では、児童一人一人に合った学習指導を行うため、例年新年度開始直後第2～第6学年の学力検査および第2・5学年の知能検査を実施している。平成23年度までは個人負担で検査を実施していたが、学力向上のために行う事業であることから学校設置者である市教委が負担すべきものとして、平成24年度より予算措置したものである。</p> <p>中学校は受験に向けた学力テストが行われ、比較的簡単に各生徒の学力状況を把握しやすい。しかしながら、小学校は学力状況を把握する機会が少なく、教職員も参考資料がないため各児童に応じた指導ができない。そのため、小学校においてこの学力・知能検査を実施していく必要がある。</p> <p>また、各教職員は授業を構成していくうえで、各児童の発達状況に応じた学力を把握し指導案を作成していけるため、本事業効果は大きいと考える。さらに、本市の学力を把握し分析していく資料としても最適な事業といえる。</p> <p>平成24年度実施実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>学力検査</th> <th>知能検査</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第2学年</td> <td>40人</td> <td>40人</td> </tr> <tr> <td>第3学年</td> <td>36人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第4学年</td> <td>45人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第5学年</td> <td>41人</td> <td>41人</td> </tr> <tr> <td>第6学年</td> <td>42人</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						学年	学力検査	知能検査	第2学年	40人	40人	第3学年	36人		第4学年	45人		第5学年	41人	41人	第6学年	42人	
学年	学力検査	知能検査																						
第2学年	40人	40人																						
第3学年	36人																							
第4学年	45人																							
第5学年	41人	41人																						
第6学年	42人																							
課 題	<p>○本事業効果の知能・学力の実態把握や短期効果については、実際に本事業検査を資料として活用する各教職員が把握し効果を得ていることとなるため、学校から事業効果等を報告してもらう必要がある。</p> <p>○学力向上に関しては、学校からの実施結果報告（正答率等）で効果が見えてくるものではなく、その報告を長期にわたり分析していくとどこ効果を見ていかななくてはならない。そのため、開始年度以降引き続き分析し、本市小学生児童の学力向上を図っていく必要がある。</p>																							
今後の方向性	○引き続き毎年度本事業を実施し、本市児童の学力向上のための資料として活用していく。																							
教育委員会の自己評価																								
事業達成度	事業効果	本事業は児童の学力向上において必要なものである。また、教職員が児童の実態を把握し指導することで学習環境もより一層良いものとなる。本市の学力の実態把握や改善策を考える参考資料として本事業は欠かせないと考える。																						
B	A																							

平成 25 年度 夕張市教育行政点検評価表（総括表）

事務事業名	4 学校施設設備の整備	担当課	教育課(学校教育)・社会教育・社会体育	
目的及び概要	<p>児童・生徒が安全で快適な学校生活を送れるよう、児童・生徒の安全性の確保、施設の耐久性と教育環境の質的向上を目的に必要な事業を行う。 また、教材教具等については児童生徒の学習活動に支障がないよう計画的に整備を行う。</p>			
平成24年度の 主な事務事業名 及び決算額	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)
	(1) 小・中学校校舎維持補修	694	692	2
	(2) 小・中学校教材教具整備	2,608	2,343	265
	(3) 小・中学校管理業務(用務員賃金)	5,938	5,916	22
	(4) 夕張中学校体育館落雪対策	6,830	6,657	173
事業実績及び効果	別紙細目(1)～(4)に記載			
課 題	別紙細目(1)～(4)に記載			
今後の方向性	<p>小中学校統合による校舎等の大規模改造工事に伴い、必要な設備・備品等の整備も行ったことから、当面施設の大規模改修は要しなが、校舎内の床磨き等、校舎の適正な維持管理と、各学校の教育方針に沿った教材等の整備を計画的に進め、教育環境の維持向上に努める。 また、学校施設設備のき損・汚損防止については、学校と連携し適切な生徒指導が行われるよう努めると共に、学校支援ボランティアによる校舎内及び校舎周辺的环境整備についても、学校支援地域教育協議会と連携して進める。</p>			
教育委員会の自己評価				
事業達成度	事業効果	<p>小中学校統合による校舎等の大規模改造工事により、校舎の耐震化、バリアフリー化、耐用年数の向上、教育環境や福祉環境の整備を行っており、必要な設備・備品の整備も行い、校舎や体育館などの建物本体と、主な設備備品については当面大規模な改修や更新を要しないが、教材教具については小・中学校の教育方針に沿った整備を行っている。 校舎の維持管理を担う用務員は、常勤2名体制とし校舎内外の環境整備を行うなど、児童・生徒の安全、安心に効果を上げている。 中学校体育館の落雪対策については、本年度落雪防止柵を設置し対応したところである。</p>		
B	B			
評価委員会の評価判定及び意見				
判定	<p>・特別支援学級運営に関連して、中学校の重度な肢体不自由児が交流学級で授業を受ける場合、自動昇降機による移動は教職員の負担と安全面から問題がある。早急なバリアフリー化が必要である。また、児童昇降機のメンテナンスについても継続して行ってほしい。</p>			
B	<p>・小中学校が、災害時の緊急避難場所に指定されているが、小学校の場合夕張川上流のダム決壊による災害も想定する必要がある。</p> <p>・校舎も結構傷みが出てきているので、計画的な改修が必要である。</p>			



平成 25 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	4 学校施設設備の整備	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育		
事業項目	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(1) 小・中学校校舎維持補修	694	692	2		
事業実績及び効果	<p>小学校においては、小規模ながらも破損、劣化等による修繕箇所が度々発生したため、ごく限られた予算の中ではあったが、補修工事を行ったところである。</p> <p>また、中学校においても限られた予算の中で、施設自体の老朽化に伴い、大規模改修によっても改修しきれなかった箇所の故障に対処した他、北海道から指摘を受けていた共同調理場設備の改修工事についても行ったところである。</p> <p>小学校費 予算額 200千円 決算額 199千円 不用額 1千円          中学校費 予算額 494千円 決算額 493千円 不要額 1千円</p>					
課 題	<p>小・中学校とも統合に向けた大規模改修を行ったが、未改修部分の劣化が徐々に設備の故障につながり、これが表面化してきた。          このため、未改修部分の把握と、そのための予算措置を要する。</p>					
今後の方向性	<p>児童生徒の安全・安心な学校生活を保障することはもちろんのこと、災害時の緊急避難施設にも指定されていることや、今後起こり得る大幅な維持補修費の抑制を図るためにも計画的な補修を行っていく必要がある。</p>					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	<p>小中学校とも、学校統合に伴う校舎等の大規模改修工事を行っているため、施設の維持補修は限定的なものとなっているが、両校とも未改修部分の経年劣化などによる補修箇所は増加することが見込まれる。今後は、施設の長寿命化を図るための予算措置を検討する必要がある。</p>				
B	B					

平成 25 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	4 学校施設設備の整備	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育		
事業項目	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不用額(千円)		
	(2) 小・中学校教材教具整備	2,608	2,343	265		
事業実績及び効果	<p>小・中学校ともに、児童生徒の学習意欲を引き出すために、各学校の教育方針に沿った教材の整備を行った。</p> <p>特に中学校においては、昨今の読書離れを防ぐ意味においても図書の実・整備を行ったところである。</p> <p>小学校費 予算額 1,197千円 決算額 1,042千円 不用額 155千円</p> <p>中学校費 予算額 1,411千円 決算額 1,301千円 不用額 110千円</p>					
課 題	<p>児童生徒数の増加により教材の耐用期間が短くなることや、故障の発生も多くなることも考えられることから、各学校における教材教具の状況調査と、必要な更新を要する。</p>					
今後の方向性	<p>限られた予算の中での整備となることから、学校としての整備方針を踏まえたうえで、効果的かつ、耐用期間に配慮した教材の整備が必要となる。</p>					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	<p>小・中学校ともに、新学習指導要領に基づくもの、児童生徒の学習意欲を引き出すために、各学校の教育方針に沿った形で教材の整備を行い、一定の成果をあげたものとする。</p>				
B	B					

平成 25 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	4 学校施設設備の整備	担当課	教育課	(学校教育)・社会教育・社会体育		
事業項目	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不用額(千円)		
	(3) 小・中学校管理業務(用務員賃金)	5,938	5,916	22		
事業実績及び効果	<p>平成23年度に引き続き、8時間のフルタイム2名体制（11カ月雇用）を行うことで、校舎内外の環境整備を図り、安全点検による早期の異常個所見出にも努めているところである。</p> <p>小学校（1校 常勤2名） 予算額 2,990千円 決算額 2,978千円 不用額 12千円          中学校（1校 常勤2名） 予算額 2,948千円 決算額 2,938千円 不用額 10千円</p> <p>維持管理作業の増加が見込まれるため、現在の雇用体制を維持し、合理的な作業実施により良好な教育環境の整備を図る。</p>					
課 題	<p>小中学校とも生徒数の増加により、学校施設のき損、汚損が増加し用務員の維持管理作業が大幅に増えている。</p> <p>また、地下タンクの危険物取扱資格を持つ用務員が小学校にしかおらず、中学校と兼務の形で対応している状況にある。</p>					
今後の方向性	<p>今後においても、学校施設の経年劣化等による異常、破損個所の早期見出が安全管理上、最も重要であり、通常の維持管理業務も広範囲に及ぶため、現在の雇用体制を維持し、安全かつ良好な教育環境の保持、整備に努める。</p>					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	<p>小中学校とも広範囲の作業量となっているため、フルタイム2名の雇用形態を継続している。また、近年の異常気象による不測事態も懸念され、特に冬場の大雪による災害発生も毎年のように危惧される状況となっているため、児童生徒の安心・安全を確保する上でも引き続き現行体制を維持する必要がある。</p>				
B	B					

平成 25 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	4 学校施設設備の整備	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育		
事業項目	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不用額(千円)		
	(4) 夕張中学校体育館落雪対策	6,830	6,657	173		
事業実績及び効果	<p>【背景・概要】</p> <p>夕張中学校体育館北側に隣接した市道が建設されて以降、20年以上にわたり体育館屋根の積雪が当該道路南側の歩道部分に落雪し、歩行者の安全確保のため冬期間この歩道を閉鎖してきた経過がある。</p> <p>中学校統合により、平成21年度校舎の大規模改造を実施し、体育館も屋根板金の葺替を行ったが、これにより落雪の頻度と落下速度の増加も加わり、落雪が当該道路の車道部分まで至る事態となった。</p> <p>こうした中で、歩行者等の安全確保のための恒久的対策として、平成23年度に落雪防護柵の設置に向けた測量・設計を行い、平成24年度において工事を行ったところである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・落雪防護柵設置工事費 6,657 千円</li> </ul> <p>【効 果】</p> <p>防護柵の設置により通行障害を解消させ、児童生徒に限らず住民の安全確保も図ることができた。</p>					
課 題						
今後の方向性						
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	防護柵の設置により通行障害を解消させ、児童生徒に限らず住民の安全確保も図ることができた。				
A	A					

平成 25 年度 夕張市教育行政点検評価表（総括表）

事務事業名	5 児童生徒の健康管理及び学校給食の充実	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育		
目的及び概要	<p>児童生徒の発達段階に即した献立の充実と、食に対する指導と実践を通して、食育の充実を図るとともに、関係機関と連携して食中毒など給食事故を防止し、子ども達に喜ばれる安全で安心な学校給食の提供に努める。</p> <p>また、児童生徒の健康管理については、学校保健法の規定に基づき必要な検診等を行うと共に、関係機関と緊密に連携し、インフルエンザなど感染症の予防に努める。</p>					
平成24年度の 主な事務事業名 及び決算額	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(1) 小学校給食運営	5,986	5,063	923		
	(2) 中学校給食運営	4,122	3,731	391		
	(3) 中学校給食業務（調理員賃金）	10,683	10,673	10		
	(4) 児童・生徒の健康管理	610	487	123		
事業実績及び効果	別紙細目（1）～（4）に記載					
課 題	別紙細目（1）～（4）に記載					
今後の方向性	<p>地元食材や季節に応じた新鮮で安全な食材を積極的に取り入れ、衛生管理マニュアルの徹底した実践と、調理員個々の意識改革を行い食中毒などの給食事故防止に努める。</p> <p>また、今後においても適正な調理員数を確保し、合理的な調理場運営に努める。</p> <p>児童生徒の健康管理については、学校、保健所、医療機関などと緊密に連携し、インフルエンザ等の感染症の予防対策に努める。</p> <p>また、北海道歯・口腔の健康づくり8020推進条例及び夕張市フッ化物洗口推進事業実施要綱に基づき、児童の虫歯予防に取り組んでいく。</p>					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	<p>本市の学校給食は、ゆうぱり小夕張中共同調理場として自校方式により運営され、安全・安心で美味しい給食の提供に努めている。</p> <p>給食調理員は最低限必要とされる人数以上の調理員を配置し、衛生管理の徹底などにより信頼される給食の提供と、一層の合理的な調理場運営を図っている。</p> <p>小中学校が各1校になり、インフルエンザ等の感染症が広がりやすい環境にあるため、来校者の消毒の徹底や、児童生徒に対する「うがい」、「手洗い」等指導を行っている。</p>				
B	B					
評価委員会の評価判定及び意見						
判定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養教諭、管理栄養士、調理員等の衛生管理の徹底により、食中毒などの事故がないことは評価されてよい。</li> </ul>					
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の食物に対するアレルギーの実態調査と対策が必要と思われる。</li> <li>・小中学校の献立の違いにより、調理員の労働過重が考えられないか。</li> <li>・安全安心の観点から、計画的な備品の購入が必要と思われる。</li> </ul>					



平成 25 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	5 児童生徒の健康管理及び学校給食の充実	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育		
事業項目	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(1) 小学校給食運営	5,986	5,063	923		
事業実績及び効果	<p>○食に対する指導について 低学年・中学年・高学年ごとに指導内容を設定し、年齢に沿った指導を行うことで、食に対する興味、関心を高めることができた。また、給食だよりを月1回発行することで、保護者に対しても食育に対する意識を高めることができた。</p> <p>○献立作成について 下記、留意点と児童へのアンケートなどを含めて栄養教諭が献立を作成し、子ども達に喜ばれる給食提供に努めた。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養所要量、食品構成を満たすようにする。</li> <li>・児童の実態（成長期、味覚の形成期、心身の健康等）に配慮する。</li> <li>・年間献立作成計画に基づいて作成する。</li> <li>・献立：毎日変化をつけ、子どもの嗜好を考慮し、組み合わせや調理方法を工夫する。</li> <li>・新しい献立を取り入れるようにする。</li> <li>・出来上がり量や彩りを考慮する。</li> <li>・行事食を取り入れ、食文化の継承に役立てる。</li> <li>・食材：旬の食材を取り入れ季節感を出す。</li> <li>・地場産、地元の名産品を積極的に取り入れ愛着を持たせる。</li> <li>・冷凍加工食品を使用する場合は、品質、栄養価、衛生面から選択し、使用頻度に注意する。</li> </ul> </p> <p>○準要保護児童に対する給食費の扶助について 今年度は31名の児童に対し、給食費を扶助した。夕張市は完全給食制であり給食は教育的側面を有しているため、給食の提供は不可欠。</p>					
課 題	<p>○食器が磁器製であり重い大カップ及び仕切り皿の破損が、小学生にとって扱いずらいためが多い。</p> <p>○衛生管理委員会・献立作成委員会・物資選定委員会の設置</p> <p>○給食費の未納対策</p>					
今後の方向性	<p>○食器については現在の磁器製からPEN製へと順次切り替えることにより破損による不要な支出を抑える。</p> <p>○共同調理場で献立作成委員会を設置し、PTA等外部からの意見も取り入れることにより、充実した献立を提供する。</p> <p>○給食費の未納に関し、生活保護受給者の未納が多くを占めており、催促を行っても納付されない場合は生活保護費の代理納付、児童手当からの天引きなど、担当課との連携が必要。</p>					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	<p>安全・安心な給食を提供するのはもちろんのこと、地場産品を積極的に取り入れるなど学校給食を通じて食に関する興味・関心を高めることができた。</p> <p>一方で、給食費の未納が続くと給食そのものの提供が難しくなることから未納対策は急務と思われる。</p>				
B	B					

平成 25 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	5 児童生徒の健康管理及び学校給食の充実	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育		
事業項目	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(2) 中学校給食運営	4,122	3,731	391		
事業実績及び効果	<p>○給食事故に関して 異物混入などは発生せず、食中毒に関しては食中毒警報発令があり次第、関係機関への周知の徹底等により防止できており、安心・安全な給食を提供できた。</p> <p>○献立作成について 下記、留意点と児童へのアンケートなどを含めて栄養教諭が献立を作成し、子ども達に喜ばれる給食提供に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養所要量、食品構成を満たすようにする。</li> <li>・児童の実態（成長期、味覚の形成期、心身の健康等）に配慮する。</li> <li>・年間献立作成計画に基づいて作成する。</li> <li>・献立：毎日変化をつけ、子どもの嗜好を考慮し、組み合わせや調理方法を工夫する。</li> <li>・新しい献立を取り入れるようにする。</li> <li>・出来上がり量や彩りを考慮する。</li> <li>・行事食を取り入れ、食文化の継承に役立てる。</li> <li>・食材：旬の食材を取り入れ季節感を出す。</li> <li>・地場産、地元の名産品を積極的に取り入れ愛着を持たせる。</li> <li>・冷凍加工食品を使用する場合は、品質、栄養価、衛生面から選択し、使用頻度に注意する。</li> </ul> <p>○食の指導について 学年ごとに指導内容を定め、年齢に沿った指導を行うことで、食に対する興味、関心を高めることができた。また、給食だよりを月1回発行することで、保護者に対しても食育に対する意識を高めることができた。</p> <p>○準要保護生徒に対する給食費の扶助について 今年度は47名の生徒に対し、給食費を扶助した。夕張市は完全給食制であり給食は教育的側面を有しているため、給食の提供は不可欠。</p>					
課 題	<p>○調理場の一斉点検の指摘事項から薬剤師等を含めた各種運営委員会（衛生管理委員会・献立作成委員会・物資選定委員会）の作成が必須。</p> <p>○給食費の未納対策</p>					
今後の方向性	<p>○衛生管理委員会・献立作成委員会・物資選定委員会の設置することにより、調理場内だけでなく、外部からの意見を取り入れることと、例年通り児童・生徒アンケートを行い、食育の充実と子どもたちに喜ばれる学校給食の提供に努める。</p> <p>○給食費の未納に関し、生活保護受給者の未納が多くを占めており、催促を行っても納付されない場合は生活保護費の代理納付、児童手当からの天引きなど、担当課との連携が必要。</p>					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	安全・安心な給食を提供するのはもちろんのこと、地場産品を積極的に取り入れるなど学校給食を通じて食に関する興味・関心を高めることができた。				
B	B	一方で、給食費の未納が続くと給食そのものの提供が難しくなることから未納対策は急務と思われる。				

平成 25 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	5 児童生徒の健康管理及び学校給食の充実	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育		
事業項目	項目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(3) 中学校給食業務（調理員賃金）	10,683	10,673	10		
事業実績及び効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ゆうぱり小・夕張中共同調理場の調理員雇用に係る賃金及び社会保険料を措置したもの</li> <li>・ 給食供給数 510食</li> <li>・ 調理員数（臨時）フルタイム 8名 パートタイム 1名</li> </ul> <p>平成23年度4月、小学校を統合したことにより、調理場も一つになり、市内の児童・生徒全ての給食数を調理しなければならず、衛生・安全面においてはこれまで以上に配慮が必要となった、年度当初は食数が大幅に増加したため、急きょ調理員の勤務時間を増やし配置をしたものである、その間、今後の効率的な調理方法の策定に努め、5月からは通常の勤務体系となり、安全・安定的に給食を提供できている。</p>					
課題	○現在の給食調理員全てが、統合前から雇用している勤務経験の長いベテラン調理員であることから調理については非常に慣れているという反面、欠員が生じたときにそれを埋める人材の確保が課題である。					
今後の方向性	○上記課題の解決とともに、業務手順のマニュアル化や簡素化に努める必要もある。					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	本市の給食共同調理場については、自校方式により運営しており、調理員についても正職員の配置はないものの、ベテランの臨時職員を適正に配置することにより、安全・安心で美味しい給食の提供に努めている。今後も衛生管理の徹底と、地域に密着した給食の提供に努める。				
B	B					

平成 25 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	5 児童生徒の健康管理及び学校給食の充実	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育																	
事業項目	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)																	
	(4) 児童・生徒健康管理	610	487	123																	
事業実績及び効果	<p>○出席停止、学級・学校閉鎖に関して 学校保健法第12条に基づく伝染病に関しては学校医と養護教諭等との連携を密に行い、的確に出席停止を行い、感染症の拡大防止に努めた。（小中学校においては学級・学校閉鎖はなかった）</p> <p>○学級・学校閉鎖実績 インフルエンザの原因により幼稚園で2月上旬に、一回、7日間実施した。</p> <p>○主な感染症別出席停止患者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>インフルエンザ</th> <th>溶連菌感染症</th> <th>流行性耳下腺炎</th> <th>水痘</th> <th>手足口病</th> <th>マイコプラズマ肺炎</th> <th>ウイルス性胃腸炎</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>37名</td> <td>4名</td> <td>5名</td> <td>3名</td> <td>1名</td> <td>2名</td> <td>8名</td> </tr> </tbody> </table>							インフルエンザ	溶連菌感染症	流行性耳下腺炎	水痘	手足口病	マイコプラズマ肺炎	ウイルス性胃腸炎	37名	4名	5名	3名	1名	2名	8名
	インフルエンザ	溶連菌感染症	流行性耳下腺炎	水痘	手足口病	マイコプラズマ肺炎	ウイルス性胃腸炎														
	37名	4名	5名	3名	1名	2名	8名														
<p>○学校保健安全法施行規則に定められた健康診断、環境衛生検査等に関しては遅滞なく実施をした。</p> <p>○結核健診に関して 問診票、内科健診時の問診により判断しており、昨年度の精密検査要検討児童・生徒はいなかった。また、夕張市は南空知結核対策委員会に属しており、要検討児童・生徒がいた場合においても適切な判断をくだすことができる。</p>																					
課 題	<p>○各学校一校化に伴い、感染症が広がりやすく、特に小学校において患者数が増加傾向にあり、うがい、手洗い等感染症予防に努めているが、低学年の感染を狭い校舎内でどのように防ぐかが課題となっている。</p> <p>○平成25年度より、南空知結核対策委員会の事務局の輪番が夕張市となっており、医師会、学校長等への協力の依頼を進める。</p>																				
今後の方向性	<p>○以前より来校者の消毒の徹底や、児童生徒に対する「うがい」、「手洗い」等指導を行っているが、更に指導の徹底を図る必要がある。</p> <p>○今後も学校保健法、同法施行規則に沿い、確実に健診・検査等を行い、児童生徒の健康・安全に努める。</p>																				
教育委員会の自己評価																					
事業達成度	事業効果	<p>養護教諭、学校医等の協力により、児童・生徒の健康診断や環境衛生検査はスムーズに実施することができた。</p> <p>また、昨年度インフルエンザの出席停止者数が増加したが、今年度は大幅に減少した。学校での感染予防対策を今後も実行する。</p>																			
B	B																				

## 平成 25 年度 夕張市教育行政点検評価表（総括表）

<b>事務事業名</b>	6 幼稚園教育の充実	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育
<b>目的及び概要</b>	創造性にあふれ、心豊かな子どもの育成のため、地域の保育園、学校、福祉施設などとの交流を通し、人々との触れ合い体験による社会性の育成や、学びと遊びを中心とした教育課程の充実を図るなかで、魅力ある幼稚園づくりに努める。			
<b>平成24年度の主な事務事業名及び決算額</b>	<b>項 目</b>	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)
	(1) 幼稚園運営（人件費を除く）	4,912	4,744	168
<b>事業実績及び効果</b>	<p>○他校種等連携 清陵保育園・ゆづり小学校交流、夕張中学校・札幌工業高校来園。 学習の一環としての活動を通し、異年齢との触れ合いやものづくりを体験し、創作や遊びの創意工夫を築くことができた。</p> <p>○食育教育の充実 幼稚園園庭での食物の栽培と収穫や、毎日の昼食時間を通じ、食べ物の大切さや食事の大事さを学んだ。</p> <p>○特色ある教育活動 「英語遊び」による異なる文化への関心、幼児対象の鑑賞教室に参加し幼児間交流をするなど小学校就学時の安心育成に効果を上げた。</p> <p>○地域との連携 ボランティアによる読み聞かせ、市内施設の訪問（清光園・虹ヶ丘）による世代間交流などを通じ、人間形成の基礎を育成した。</p> <p>○保護者との連携 年5回の保育参観・懇談会や各種行事の企画により保護者の来園を呼びかけ、教育活動の理解と信頼関係を築くことができた。</p>			
<b>課 題</b>	<p>○定員（定員70名、在園児30名）割れの解消努力と園児募集の強化。</p> <p>○施設の老朽化に対する対応。</p> <p>○職員の専門性を高める研修の充実。</p>			
<b>今後の方向性</b>	<p>○募集要項の広報への定期的な掲載（2か月に1回程度）と募集ポスター掲示位置の再考をし、入園児増加に努める。</p> <p>○各交流事業に関しては継続して行い、社会性の育成に努める。</p>			
<b>教育委員会の自己評価</b>				
<b>事業達成度</b>	<b>事業効果</b>	人口減少と少子化により、大幅な定員割れが続いており、今後の園児数の動向によっては、園の在り方を含めた対応も必要である。当面はALTによる英語遊びや、福祉施設等との交流、小・中・高との連携など特色ある教育課程を推進することなどによる園児獲得を図る必要である。		
<b>B</b>	<b>A</b>			
<b>評価委員会の評価判断及び意見</b>				
<b>判定</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他校種等連携については、前年度同様市内の小中学校との交流を年数回行っており、特に年長の園児においては小学校入学時の不安を解消出来るものと期待する。又市内外の高等学校等の交流も行っており、これからも続けてほしいと期待する。</li> <li>・食育教育については、長年行っている行事で市内の農家を見学する事で食物の大切さ、又生産者の苦勞を身をもって感じる事が出来大変評価できる。</li> <li>・特色ある教育活動については、前年同様市のALIによる「英語遊び」を行っており、直接英語を肌で感じる事ができ評価できる。又市内の施設訪問を通じて高齢者、障害者との触れ合いによってお互いの立場を理解し、いたわりの気持ちを身に付けてもらえるものと期待できる。</li> </ul>			
<b>B</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域との連携については、年間行事、特に運動会や発表会においては地域に参加を呼びかけ連携を図っている事は評価できる。しかし、園児の通園が広範囲の為、もっと多くの方への参加呼びかけを考えて頂きたい。</li> <li>・保護者との連携については、各種行事における参加、並びに連携をもっと呼びかけてほしいと期待する。又、時間外保育も年々増加していると聞き、これについては保護者の負担軽減の意味からも、今後も継続してほしいものと期待する。</li> <li>・ユーパロ幼稚園の一番の課題は、園児の確保である。これは幼稚園に限らず市内の保育園も同様で、最低でも現在の園児数を確保し、維持する様期待する。それには園児募集方法についても工夫してもらいたい。ちなみに園児の数は前年度に比べ今年度は数人増している事については評価できる。又、施設の老朽化についても今後の課題となる事で、それについては市との連携を図り対処していく事が必要である。</li> </ul>			



平成 25 年度 夕張市教育行政点検評価表（総括表）

事務事業名	7 文化振興	担当課	教育課	学校教育	社会教育	社会体育
目的及び概要	社会構造の変化に伴い、多様化する市民の学習要求に対応し、市民一人ひとりが心豊かに充実した生活を実現するため、市民の自発的学習活動を援助すると共に、体系的、継続的な社会教育行政を推進する。					
平成24年度の 主な事務事業名 及び決算額	項目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(1) 児童生徒鑑賞教室	500	500	0		
	(2) 美術館収蔵品整理事業	719	632	87		
	(3) 公民館事業	0	0	0		
	(4) ふるさとギャラリー事業	0	0	0		
	(5) 生涯学習プロジェクト事業・わくわくプロジェクト事業	0	0	0		
	(6) 文化財保護事業	0	0	0		
	(7) 図書コーナー事業	113	102	11		
事業実績及び効果	別紙細目(1)～(7)のとおり					
課題	別紙細目(1)～(7)のとおり					
今後の方向性	文化振興については市民が充実した生活を送るために不可欠なものであることから、市民との連携を強化し、これらの事業について継続的に推進していきます。					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	児童生徒に係る夕張学校鑑賞教室については予算が確保されており、舞台芸術を身近に体験できる貴重な機会を提供している。美術館収蔵品整理事業は美術館屋根崩落後の収蔵品移設後の美術品を整理するための緊急対応事業を行った。公民館事業及び図書コーナー事業は予算が厳しく、その他の事業については、予算化されていないが、社会教育委員、文化財保護委員、ボランティアの皆様及び職員との連携と創意工夫された活動により、比較的スムーズな運営が行われている。				
B	A					
判定	評価委員会の評価判定及び意見					
A	<p>文化振興は、地域活性化のバロメーターであり地域に住む住民がいつでもだれでも気軽に参画できる生涯学習社会づくりに寄与し、文化の香り高い夕張の魅力をもっと高めることにはなれないか。社会教育予算のない中、ボランティアの方々を含めてこれだけの行事を行っていることは高く評価したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童劇の鑑賞は、児童にとって集中して興味をもちながら鑑賞している姿は、児童自身の自信に繋がり発表会への参考となり、芸術文化面での教育効果はあったと思われる。今後、単なるイベントに終始することなく鑑賞の意義を「授業」の中に取り込まれたい。</li> <li>美術館の屋根崩落後により美術品の所蔵品の扱いについては、公的な施設へ移設、整理整頓するための緊急対応事業への予算確保ができたのは高い評価をしたい。今後、市民に所蔵品の鑑賞の機会を増やすためにも広報等のPR活動を推進を図る共に盗難防止策や空調対策、学芸員の配置などの課題に対し、継続要望して予算確保されたい。</li> <li>公民館事業は、地域学習の拠点として、各種生涯学習事業が実施されているが、高齢者学級「もも倶楽部」の企画は、「生きがい・健康」をテーマとした講座など活発に展開され、更には「雪月花展」などは、夕張ならではの特色ある芸術文化の発表の「場」として観覧者も多くあり、更には、新入学児交流事業「みんなともだち」の企画などは、小学校一校化による初の幼児・親子を対象とした事業実施には多くの参加があったのは評価をしたい。</li> <li>ふるさとギャラリーは、作品を発表する側にとっても創作活動に意欲がわき、来場者にとっては、鑑賞の機会に触れ、文化活動を始める「きっかけ」となっている。今後、市民の創作意欲を高めるため埋もれた才能を発掘「例・陶芸、昔なつかしいおもちゃ、構築物の模型」なども対象にして多くの市民参加できる工夫が必要かと思われる。</li> <li>生涯学習プロジェクト・わくわくプロジェクト事業は、こどもから大人まで幅が広く、活動実績を踏まえ、学校教育と社会教育の利点を生かした事業運営は高く評価されており、今後、だれでもが気軽に参加できる雰囲気づくりを心掛け「時間や休日・活動内容」など再検討をされ生涯学習の楽しさをきめ細かな情報提供を推進していくことが大切ではないか。</li> <li>文化財保護事業は、過去の炭鉱遺産、化石やシューパロダム旧森林鉄道「三弦橋」など数多くの価値ある産業遺産を、今後、地域資源の価値の見直しを含め再評価と伝承していくための様々な課題に向け行政機関はもとより社会教育委員や文化財保護委員などとの連携は欠かせないと思われる。</li> <li>図書コーナー事業は、読書を通じ人間の知識、教養を高めるための事業を活発に展開され、特に、子どもへの「読書支援」や「図書まつり」での読みかたり、折り紙など工作、紙芝居など多彩な出し物を工夫され、「遊びと楽しさ」を提供され事業として高い評価をしたい。</li> </ul>					

平成 25 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	7 文化振興	担当課	教育課	学校教育	社会教育・社会体育
事業項目	項目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)	
	(1) 児童生徒鑑賞教室	500	500	0	
事業実績及び効果	<p>①ひのき屋わいわい音楽隊！            公演団体：(株)ヒトココチ 日時：平成24年9月7日（金）10:45～12:05            会場：ゆうばり小学校体育館 対象：小学校児童及び一般市民            出演者が獅子舞で登場し、祭囃子や会場の雰囲気や怖がる低学年児童が数名いたが、全体的には会場は一体となって盛り上がり、最後にはアンコールがでるなど子どもたちは身体全体で楽しんでいた様子であった。</p> <p>②ミュージカルパフォーマンス「スクラップ」            公演団体：(株)笑う猫 日時：平成24年9月11日（火）10:40～12:20            会場：夕張中学校体育館 対象：中学生及び一般市民            急遽ワークショップを取り入れることとなったが、教諭・生徒の参加もスムーズに進み、結果、参加型の鑑賞教室となった。内容もわかりやすいものだった。舞台上でのパフォーマンス（ダンス）などは生徒の関心も高かったようである。</p> <p>各学校の鑑賞事業担当教諭が主体的に対応することで、子どもたちも「イベント」ではなく「授業」の一環として受け入れ易い体制になっている。</p>				
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より効果的な鑑賞教室にするため、事前・事後の学習機会を計画的に設けるようにできるとよい。</li> </ul>				
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・舞台芸術を身近に体験できる貴重な機会であり、今後も継続していくべき事業であると考え。</li> <li>・内容・運営については、今後も実行委員会（各学校の担当教諭）の主体性が求められる。</li> </ul>				
教育委員会の自己評価					
事業達成度	事業効果	<p>年に一度ではあるが、学校で間近に舞台芸術にふれることは、児童生徒の芸術的な感性を養うことにつながり、情操教育において非常に意義あるものと言える。            また、鑑賞態度を学ぶ上でも今後も継続して実施する必要がある。</p>			
A	A				

平成 25 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	7 文化振興	担当課	教育課	学校教育	社会教育・社会体育
事業項目	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)	
	(2) 美術館収蔵品整理事業	719	632	87	
事業実績及び効果	<p>平成24年2月23日、雪の重みにより夕張市美術館の屋根が崩落したが、大部分の作品は地下に収めてあったため無事であった。</p> <p>それらの収蔵品は、その後夕張中学校の空き教室2部屋へ搬入されたが、建物の更なる崩落の危険があったため短時間で作業を行わずにはならず、その結果全く整理することができない状態で教室へ収めざるを得なかった。</p> <p>その後、北海道の「雪害対策への平成24年度緊急雇用創出推進事業」補助金を活用して専門知識を持つ人物2名を雇用し、平成24年4月20日～6月29日の期間で本事業を実施した。</p> <p>当初、中学校の空き教室には美術品が乱雑に押し込まれており、作品を探すこともできない状態であったが、それらを整理して並べ直し、全ての美術品の作者・題名等のチェックを行い、更に全てについて写真撮影を行った。</p> <p>それらの作業の結果、空き教室に美術品収蔵庫としての機能を持たせることができた。</p>				
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空き教室を収蔵庫とすることができたが、セキュリティー及び温度・湿度の管理の面で十分であるとは言えない。</li> <li>・美術に関する専門知識を持った職員がいない。</li> </ul>				
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門知識を持った臨時職員1名を雇用し、市内の公共施設において美術品の展示を行う。</li> <li>・美術品が劣化しないように、作品を収蔵する教室に機械警備システム及び空調設備を設置する。</li> </ul>				
教育委員会の自己評価					
事業達成度	事業効果	美術館が無くなった後に収蔵品を活用するための基礎を作ることができた。			
A	A	今後の夕張市の文化振興に大きく寄与したと言える。			

平成 25 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	7 文化振興	教育課	学校教育	社会教育	社会体育
事業項目	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)	
	(3) 公民館事業	0	0	0	
事業実績及び効果	<p>高齢者学級「もも倶楽部」 参加者38名          6月 健康についての講話 / 7月 僕が体験した東日本大震災～防災を考える          8月 江戸の粋～紋切り遊び / 9月 視察研修 北広島市（道新フムフム館他）          10月 頭の体操・寝たきりにならないために～転ばない体づくり          11月 お正月飾りを作ろう / 12月 夕張の歴史を語るもの～文化財のお話          もも倶楽部については参加者減が続いていたが、24年度から開講曜日を変更したことにより定員近い参加があった。高齢者に生涯学習の機会を提供するため保健行政や関係機関と連携し、生きがい・健康をテーマとした講座や講演を計画的に提供している。運営は受講者の負担金のみで実施している。</p> <p>雪月花展（6月20日～23日）出品者18組72名、観覧者356名          新春書初大会（1月8日）参加者2名          短詩文芸大会（1月25日）参加者15名</p> <p>例年の事業となっている、雪月花展、新春書初大会、短詩文芸大会は、主催者としてではなく開催協力者として関わり、市民主体での交流を促進している。会員の市外転出と高齢化、また学習の個人化が進む中において、サークル等への会員増は難しい状況である。書初大会については、年々参加者が減少しており、事業を継続するのであれば学校との何らかの連携が必須である。</p> <p>また24年度新規事業として、英会話教室・出前講座・新入学児交流事業「みんなともだち」を実施した。特に昨年度課題としていた小学校一校化による幼児・親子を対象とした事業の実施については、青少年育成協議会・民生委員児童部会と共催で実施でき、地域を巻き込んだ事業となった。</p> <p>英会話教室（5月23日～2月6日・全16回）参加者18名          出前講座（12月～3月・希望する老人クラブ対象）実施回数6回・参加者延べ90名          みんなともだち（①11月9日 レクリエーション）参加者21組          （②12月9日 ものづくり・講話）参加者29組</p>				
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サークル等の構成メンバーの固定化・高齢化。</li> <li>・倒壊した美術館に代わる市民の作品発表スペースの確保と料金体系の検討。</li> </ul>				
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館事業は市民が心豊かに生活し、生きがいを感じることができる事業として非常に重要であるが、人的には厳しい状況であることから事業内容を精査し実施していく。また貸館としての中心的役割を果たせるよう計画的に、老朽化している施設の修繕や展示パネルの整備、また料金体系について検討していく必要がある。</li> </ul>				
教育委員会の自己評価					
事業達成度	事業効果	<p>予算がなくなったことにより、定期講座や機会事業の提供ができなくなった中において、現在実施している事業は、市民の参画により残ってきた事業である。</p> <p>今後も市民主体で事業を進めるとともに、事業の内容がより充実したものとなるよう努める必要がある。</p> <p>また社会教育中期計画の懸案事項でもあった地域と子どもたちをつなげる事業・届ける学習機会等については市民からの良い反応もあったため、来年度以降も継続していきたいと考える。</p>			
A	A				

平成 25 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	7 文化振興	担当課	教育課	学校教育	社会教育	社会体育
事業項目	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(4) ふるさとギャラリー事業	0	0	0		
事業実績及び効果	<p>4月 山家洋人習字展            4月・5月 田中正秋写真展            6月 瑞枝会三人展            7月 保育園児の海の作品展（保育協会）、原爆パネル展～新日本婦人の会            8月 木達工芸展            9月 絵画4人展            10月 ハッピーハロウィン（保育協会）            10月・11月 地域活動センター作品展            11月・12月 緑風展（夕張高等養護学校）            12月 保育園児作品展            1月 書初展            1月・2月 藤崎美里習字展            3月 渡場実希習字展</p> <p>市民の作品の展示会場として定着してきたことで、年間を通じ使用頻度が非常に高くなった。            作品を発表することで充実感を得ることができ、さらなる創作意欲へとつながるものと思われる。また、作品を鑑賞した側にも大きな影響を与え得ることから、市民の文化活動の活性化へ大きく貢献できる事業である。さらに、癒しや安らぎの空間としての機能も十分に果たしている。</p>					
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 作品を発表する市民の発掘、情報の把握が必要である。</li> <li>• 展示会の満足度を高められるよう、展示の工夫などの適切なアドバイスを行える職員の学習が必要。</li> <li>• 利用団体の固定化がみられる。</li> </ul>					
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>• なるべく多くの方が、展示機会が持てるよう、また多くの方に見てもらえるような場所にしていくための周知方法も検討が必要。</li> </ul>					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	市庁舎の空きスペースを活用したギャラリーとして、市民の認知度が高まってきている。				
B	A					



平成 25 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	7 文化振興	担当課	教育課	学校教育	社会教育	社会体育
事業項目	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(5) 生涯学習推進プロジェクト事業・わくわくプロジェクト事業	0	0	0		
事業実績及び効果	<p>①生涯学習推進プロジェクト事業内容 参加者</p> <p>6月 おいしい野菜をつくろう 17名</p> <p>8月 ふれあい移動動物園 59名</p> <p>8月 ふるさと再発見！夕張岳登山 6名</p> <p>10月 夕張記録をつくろう 21名</p> <p>11月 図書まつり 約90名</p> <p>事業は平成19年度に設立した生涯学習馬場基金と参加者負担金で運営。 社会教育委員経験者を中心に社会教育関係職員、市民等でスタッフを構成。 毎月、生涯学習カレンダー「まなびーば」を発行し幼稚園、保育園、小・中学校に配布。 保護者への生涯学習の情報提供を通じ学習意欲を高める手助けをしている。 また実際に講座や体験事業を企画運営し、生涯学習の楽しさを広める実践をしている。</p> <p>②わくわくプロジェクト事業内容 参加者</p> <p>夏・8講座（ペットボトルロケットをつくろう他） 190名</p> <p>冬・9講座（オリジナルせっけんづくり他） 80名</p> <p>特別企画活動・バードハウス設置会 18名 （NPOフェザードフレンド・NEXCO東日本と共催）</p> <p>わくわくクリスマス会 53名</p> <p>事業は「読売光と愛の事業団」からの助成金と参加者負担金で運営。 学校教育関係者・社会教育関係者・児童福祉関係者で実行委員会を構成。 平成9年度設立。当初は美術館事業。幼児・小中学生を主に、芸術的な体験の場を創出している。 学校教育と社会教育の利点を生かした事業運営を目指しており、各実行委員の学びの場でもある。</p>					
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者はリピーターが多いので、新規参加者を開拓するため、より広い分野の講座の開催が求められる。</li> <li>・①は委員の多忙と主体性の低下、②は学校の統合による教員数の減少に伴う人材不足があり、ともに組織としては停滞化が否めない状況がある。</li> <li>・②の助成金は平成28年度までとなり、それ以降の財源見通しは立っていない。</li> </ul>					
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業内容をより多様なものとし、時代に即した事業も交え、生涯学習社会構築の一助となるプロジェクトを目指す。</li> <li>・市外に異動した実行委員に、より積極的に参加してもらうように働きかける。</li> <li>・委員以外の人のアイディアも取り入れるなど講座の幅を広げる。</li> </ul>					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	<p>社会教育関連事業の予算が全くない現状では、「社会教育」を進める上で市民団体との連携事業は不可欠なものとなっている。そのことから、本事業の果たす役割は極めて大きいと言える。</p> <p>社会教育関係職員もスタッフの一員であり、団体の活動趣旨と運営の利便を考え市教委で事務局的な補佐をしている部分もあるが、あくまで市民団体の活動であり、勤務時間以外の活動はボランティアとなっている</p>				
B	A					

平成 25 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	7 文化振興	担当課	教育課	学校教育	社会教育・社会体育
事業項目	項目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)	
	(6) 文化財保護事業	0	0	0	
事業実績及び効果	<p>平成23年度に、旧森林鉄道の「三弦橋」を含む『夕張シューパロダム湖周辺の橋梁群とその景観』の市文化財への指定に関する協議を経て文化財保護委員会に諮問を行っていたが、6月22日に答申があり、それを受けて9月4日に指定の申請を行い、9月21日に指定となった。</p> <p>市指定文化財である「採炭救国坑夫の像」の今後の保存・修復方法について、文化財保護委員長とともに道都大学の講師と協議を行った。</p> <p>夕張岳に関しては、夕張岳関係者協議会を開催し、天然記念物「夕張岳の高山植物群落及び蛇紋岩メランジュ帯」の保護・保全について関係各位と意見交換を行った。高山植物盗掘防止のための監視・キャンペーン活動が、空知総合振興局が主体となって計3回実施されたが、監視及びキャンペーン活動にそれぞれ1回ずつ参加した。</p> <p>天然記念物の現状変更許可申請（4件）については、適切に処理を行った。</p> <p>夕張市内で産出した化石資料等を用いて、ゆうぱり小学校6学年の理科の時間で講義を行った。</p>				
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財保護事業に対しては予算措置がなされていないが、最低限の維持管理は必要であるため、今後、予算措置や人員確保について検討していく必要がある。</li> <li>観光施設、指定管理という制約もあり、石炭博物館が博物館として教育、研究、普及の面からも十分機能していない現状がある。</li> </ul>				
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財保護に関わる予算要求を検討するとともに、文化財保護活動への市民参加を促していく。</li> <li>また、文化財の現状の確認及び文化財候補の調査を行い、それらを用いた市民への普及活動も実施していくとともに、市民団体等との連携を深める。</li> <li>石炭博物館を普及活動の場として利用できるようにしていく。</li> </ul>				
教育委員会の自己評価					
事業達成度	事業効果	<p>予算がなく人員も不足している状況ではあるが、文化財保護委員と協力しながら文化財の保存方法の検討、市指定文化財（記念物）の指定など、一定の成果を上げることができた。</p> <p>今後多くの機関と連携した活動を推進していく必要がある。</p>			
B	B				

平成 25 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	7 文化振興	担当課	教育課	学校教育・ <u>社会教育</u> ・社会体育		
事業項目	項目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(7) 図書コーナー事業	113	102	11		
事業実績及び効果	<p>①子どもへの読書支援 月1～2回乳幼児健診会場での読み聞かせ・絵本紹介 道立図書館・読み聞かせボランティアの協力による学校ブックフェスティバル 週1回小学校での朝の読み聞かせ 乳幼児健診会場では親子が絵本を読みあうのが見受けられ、小学校では子ども達が読み聞かせに集中していることから一定の効果があがっている。</p> <p>②学校図書室整備 寄贈図書をボランティアとともに整備し、小中学校へ振り分けた。 中学校の図書の整備も購入・寄贈の都度、図書コーナーで行なっている。学校図書室に、図書コーナーとボランティアが積極的に関わることによって、小中学校ともに図書室の利用が増えている。</p> <p>③図書まつり たかたひろこさん読みかたり（夕張子ども文化の会協力） 平野美和子さん語り（読み聞かせボランティア協力） 読み聞かせボランティアによるおはなし会 工作コーナー（ゆうばり生涯学習推進プロジェクト協力） 古典絵本展示（道立図書館協力） 図書コーナー夜間開館（ゆうばりカルチャーナイト実行委員会協力） 各市民団体や道立図書館の協力により、大盛況のイベントとなった。</p> <p>④第1次子どもの読書活動推進計画の策定 計画の策定に際し、アンケート調査をすることによって、現状と課題がみえてきた。今後は計画に沿って活動を展開していきたい。</p>					
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報ゆうばりに図書コーナー通信を「ほっとひといき 本とひととき」として掲載。年1回の掲載となってしまったが、年数回、定期的に掲載するようにしたい。</li> <li>・郷土資料の整理が不十分で、利用者の調べものに充分応えられなかったり、或いは時間がかかる現状がある。</li> </ul>					
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非常に大きな力となっているボランティア団体へ、事業への協力を引き続きお願いする。</li> <li>・市民の読書活動を支援情報発信の場となっている図書コーナーを、資料の収集・展示の面でもより充実したものとなるよう努める。</li> </ul>					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	ボランティア団体の活発な活動により、図書コーナーの事業が成り立っている。 子どもへの読書支援を継続しながら、一般市民への啓発活動及び情報発信も充実させることとしたい。				
B	A					

## 平成 25 年度 夕張市教育行政点検評価表（総括表）

<b>事務事業名</b>	8 スポーツの振興	担当課	教育課	学校教育・社会教育	社会体育
<b>目的及び概要</b>	子どもからお年寄りまで、市民があらゆる機会を通じて、気軽に楽しくスポーツ・レクリエーション活動に参加できるよう、生涯スポーツを目指したスポーツ環境の整備を推進するとともに、施設利用者の利便性を考慮し、合理的な施設運営に努める。				
<b>平成24年度の主な事務事業名及び決算額</b>	<b>項目</b>	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)	
	(1) 文化スポーツセンター管理	14,316	13,136	1,180	
	(2) 平和運動公園管理	10,021	9,633	388	
	(3) 体育施設管理（指定管理等施設）	736	620	116	
	(4) 清水沢プール管理	3,127	2,981	146	
<b>事業実績及び効果</b>	別紙細目（1）～（4）のとおり				
<b>課題</b>	別紙細目（1）～（4）のとおり				
<b>今後の方向性</b>	<p>施設利用者に支障や事故が起きないように適切な管理運営を行う。また少しでも多くの方々に気持ち良く利用していただけるよう、利用者の利便性を第一に考えた施設運営に努めることにより、利用者の減少傾向に歯止めをかけたい。</p> <p>老朽化している設備のうち特に緊急性の高いものについては予算を確保するよう努め、引き続きネーミングライツによる新たな財源の確保に努力し、より良い施設環境を作り上げていきたい。</p>				
<b>教育委員会の自己評価</b>					
<b>事業達成度</b>	<b>事業効果</b>	一部のスポーツ施設については老朽化が進み、維持管理には膨大な経費が必要になるが、現在利用者にも不便をかけながら最低限の予算、限られた職員体制の中、創意工夫をしながら施設運営を行うことでスポーツ振興や地域の活性化にも貢献している。			
<b>B</b>	<b>B</b>				
<b>評価委員会の評価判定及び意見</b>					
<b>判定</b>	<p>スポーツ・レクリエーションを愛好することは市民の健康の維持はもとより仲間とのチームワークづくりにも寄与し、子どもからお年寄りまで健康維持に利用できるようあらゆる機会を通じて、更なる利用者向けの啓発活動を展開していくべきである。少子高齢化と人口減の続く夕張市では、各世代における運動・スポーツに親しむ機会が減少傾向にあり、加えて各施設の老朽化が激しく、施設管理に伴う人員の確保を含め必要最低限の予算確保に向け全力を尽くして欲しい。又、各スポーツ施設の維持管理には市教育委員会の少ない職員で対応している状況にあって指定管理者やボランティアらによる協力、支援の「輪」を広げ、今後、社会教育施設であるスポーツ施設の有効活用が図られるよう今後も継続して、スポーツ指導者などの人材の発掘や育成を図り、市民ニーズに対応できるスポーツ教室などの事業への取り組みを積極的に進められたい。</p>				
<b>B</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化スポーツセンターについては、市内唯一の多目的体育施設として利用者からは高い評価を得ており、老朽化した文化体育館施設の維持管理、職員の削減など多くの悩みを抱えながら管理維持を図っているが、依然、管理面で人員確保には大きな課題があり、再生計画変更による予算要求としての項目に必要性を強く要望していくべきである。</li> <li>・平和運動公園管理については、多目的運動施設として競技場の芝管理は徹底され利用者からも評判も良好であるが、今後の維持に係るメンテナンス等については、限られた予算の中で維持管理されているが、市OBによるサポート支援センターの解散により、現状での人手不足の解消を含め、喫緊の課題でもあるので継続要望していく必要がある。</li> <li>・体育館施設管理（指定管理施設）については、財政再生下にある中、指定管理施設の利用割合は、前年対比で減少傾向にあり、今後指定管理制度による運営委託団体も高齢化が進み、施設維持に支障をきたす恐れがあり、各指定管理者らと建物の維持管理を含め共通認識の上にたった管理対策が急務ではないか。</li> <li>・清水沢プール管理については、財政破綻により、市営プールや温水プールの廃止などで、市内に残る唯一の水泳プールとして維持管理され、子どもたちや市民が水泳を楽しむ施設として体育の向上と教育効果に資している。小学校の統合により、「小学校」「幼稚園」「保育園」などが付近に隣接され、立地的にも利用しやすい環境にあり、スポーツ教育の一環としてプール授業にも活用、高い評価がなされ、今後、安全第一に考え、監視体制に最善の注意を払いながら管理体制の強化に努められたい。</li> </ul>					



平成 25 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	8 スポーツの振興	担当課	教育課	学校教育・社会教育 <b>社会体育</b>										
事業項目	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)										
	(1) 文化スポーツセンター管理	14,316	13,136	1,180										
事業実績及び効果	<p>○事業実績</p> <p>①情報提供 市民に漏れなく行事予定などを周知をするため、「暮らしのカレンダー」にスポーツ、レクリエーション等の行事を掲載するとともに、サークル紹介のポスター掲示等により情報提供に努めてきた。 また、昨年度より市ホームページで予約状況を確認できるようにしたことから、市外からのスポーツ大会、合宿などについての問い合わせがスムーズになった。</p> <p>②設備維持管理 年数を経て施設・設備が老朽化し、利用者には不便を強いることがあると思われるが、対応できる限り修繕・整備を行ってきた。 アリーナの床面が滑りやすい状態で、利用者の支障となっていたため、ワックス掛けを含む床清掃業務を実施した。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>占用件数</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>テニスコート</td> <td>29</td> <td>291</td> </tr> <tr> <td>スポーツセンター</td> <td>599</td> <td>16,487</td> </tr> </tbody> </table> <p>③ネーミングライツ公募 （株）バイキューブシーと販売代理業務委託契約を締結し、販売推進に努めているほか、文化スポーツセンターに募集ポスターを掲示しているが現在のところ応募はない。</p>						占用件数	人数	テニスコート	29	291	スポーツセンター	599	16,487
	占用件数	人数												
テニスコート	29	291												
スポーツセンター	599	16,487												
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設や器具の老朽化による修繕や規格改正による更新も求められるため、計画的な維持管理が必要である。</li> <li>現在サポートセンターと臨時職員により、厳しい人員体制で管理を行っているが、今後も同程度の人員を確保する必要である。</li> </ul>													
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民のスポーツ及びレクリエーション活動に支障が生じないように、必要な情報提供と施設整備に努める。ネーミングライツについては、引き続き販売を推進し財源の確保に努める。</li> <li>施設の維持や利用者の安全確保に必要な事柄については、財政再生計画の変更も含めた予算措置を検討する。</li> </ul>													
教育委員会の自己評価														
事業達成度	事業効果	<p>人口の減少や少子高齢化、さらには施設の老朽化の影響により、文化スポーツセンターの利用数は減少傾向にあり、また施設の利用についても大会や合宿の規模も小さくなってきているが、利用者が安全かつ快適にスポーツやレクリエーションを楽しめるよう、環境整備と施設管理に努めている。</p>												
B	B													



平成 25 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	8 スポーツの振興	担当課	教育課	学校教育・社会教育	社会体育															
事業項目	項目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)																
	(2) 平和運動公園管理	10,021	9,633	388																
事業実績及び効果	<p>○事業実績</p> <p>①情報提供 文化スポーツセンターと同様、「暮らしのカレンダー」に開催される行事を掲載し、情報提供及び問い合わせの受付を行ってきた。 また、昨年度から市ホームページで予約状況が確認できるよう整備した。</p> <p>②施設維持管理 陸上競技場を含め、4面のグラウンドと野球場を有し、全国的にも高い評価を得ている天然芝のグラウンドの維持・管理のために、利用の合間をぬって芝の補修・育成等のメンテナンスを行い、10月下旬より4面のグラウンド芝の一部を張り替えた。 サッカー、ラグビー、野球などの大会や合宿が開催されることにより、宿泊施設をはじめ、市内経済の活性化の一助となっている。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>件数</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>球技場</td> <td>91</td> <td>11,246</td> </tr> <tr> <td>陸上競技場</td> <td>17</td> <td>2,873</td> </tr> <tr> <td>野球場</td> <td>32</td> <td>2,766</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>140</td> <td>16,885</td> </tr> </tbody> </table> <p>③ネーミングライツ公募 文化スポーツセンターと同様スポンサーの募集を行っている。</p>						件数	人数	球技場	91	11,246	陸上競技場	17	2,873	野球場	32	2,766	合計	140	16,885
	件数	人数																		
球技場	91	11,246																		
陸上競技場	17	2,873																		
野球場	32	2,766																		
合計	140	16,885																		
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設の維持管理のための予算が十分ではなく、維持補修費が不足している。</li> <li>過密なスケジュールでの利用で、グラウンドの芝に痛みが目立つため、芝の一部張り替え、芝生育成等ができるスケジュールの調整が必要である。</li> <li>施設の面積が広大であり、ボランティアの協力を得、ようやく管理している状況であり、慢性的な人員不足を解消する必要がある。</li> </ul>																			
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も施設の利用に支障が生じないよう、必要な情報提供と施設整備を行う。</li> <li>施設の維持に必要な事柄については、財政再生計画の変更も踏まえた検討を行う。</li> <li>財源確保のため、文化スポーツセンターと一体でネーミングライツスポンサーの獲得に努める。</li> </ul>																			
事業達成度	事業効果	<p>社会情勢などにより、施設利用における大会や合宿が小規模になってきているが、管理された天然芝により利用者からは一定の評価を得ている。 また、大会や合宿が行われることで滞在人口が増加し、市の経済の活性化の一助となっている。</p>																		
B	B																			

平成 25 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	8 スポーツの振興	担当課	教育課	学校教育・社会教育	社会体育
事業項目	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)	
	(3) 体育施設管理（指定管理等施設）	736	620	116	
事業実績及び効果	<p>夕張市が再建団体となって、市直轄での体育施設管理が厳しくなり、平成18、19及び20年度から指定管理を行っているもの。          体育施設管理の予算については、トラックの維持管理経費、施設の土地借料及び夕張岳登山口に設置されている簡易トイレのし尿処理料のみである。          老朽化した夕張岳ヒュッテは、ユウパリコザクラの会により建替工事を行っているところであり、外装に関してはほぼ終了したものである。</p> <p>○事業実績</p> <p>1. 指定管理施設</p> <p>①夕張市民健康会館（指定の期間 平成23年4月1日～平成28年3月31日）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用人数 H24 3,078人 H23 3,839人</li> <li>・効果 サッカー・バドミントン・少年野球・ミバレーなど、多様な競技に利用されている。</li> </ul> <p>②夕張市南部市民体育館（指定の期間 平成23年4月1日～平成28年3月31日）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用人数 H24 717人 H23 783人</li> <li>・効果 フットサルや太鼓など、地域に根ざした活動の一助となっている。</li> </ul> <p>③夕張市営野球場・緑が丘球場（指定の期間 平成23年4月1日～平成28年3月31日）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用人数 H24 1,393人 H23 1,118人</li> <li>・効果 市内にはチーム数も多く、利用頻度は高い。</li> </ul> <p>④夕張市紅葉山パークゴルフ場（指定の期間 平成23年4月1日～平成28年3月31日）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用人数 H24 3,280人 H23 3,852人</li> <li>・効果 開設以来パークゴルフの普及、発展に寄与している。</li> </ul> <p>2. 協定書による無償管理委託の施設</p> <p>①夕張岳ヒュッテ（指定の期間 平成24年6月1日～平成24年10月31日）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用人数 H24 295人 H23 222人</li> <li>・効果 避難小屋として、また安全な登山、事故等の救助拠点としての効果は高い。</li> </ul>				
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育施設に係る修繕等の予算化についてはされておらず、施設の老朽化が進み今後の管理に不安を残す。</li> <li>・また、登川プール及び市民健康広場のセンターハウスが解体できないため、借地している国有地を返地できない。</li> <li>・加えて、指定管理団体も高齢化が進み、会員が減るなど管理運営についても厳しい状況となってきているほか、人口の減少もあり利用人員も減少傾向にある。</li> <li>林道の状況などにより、夕張岳ヒュッテの内装工事が遅れる可能性がある。</li> </ul>				
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も指定管理及び協定書による無償管理委託については継続することとし、施設利用者の利便性を考慮し、対応可能なものについては職員で対応することとする。</li> <li>・夕張岳ヒュッテ建替工事終了後の引き渡し等に関する事務手続きを進める。</li> </ul>				
教育委員会の自己評価					
事業達成度	事業効果	<p>予算が全く無い中で、各指定管理者は創意工夫をして施設の管理運営にあたっている。これは、夕張市のスポーツ振興の一助となっていることから、今後も各指定管理者と共通理解のもと、協力しあいながら管理にあたることとする。</p> <p>夕張岳ヒュッテの建替えが早期に完了するよう協力することとする。</p>			
B	B				

平成 25 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	8 スポーツの振興	担当課	教育課	学校教育・社会教育	社会体育
事業項目	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)	
	(4) 清水沢プール管理	3,127	2,981	146	
事業実績及び効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月～8月の実質稼働日数57日間で、計2,084人が利用した。（内訳 幼児301人、小学生1,460人、中学生68人、高校生8人、一般247人） そのうち有料入場者は、高校生8人、一般52人の計60人で、収入は16,920円であった。</li> <li>・昨年度の利用者数の合計が2,982人であったため、898人（30%）の減員となった。原因としては、水泳教室が実施されなかったことが大きいと考えられる。収入も昨年度の52,490円から16,920円と68%も減少している。</li> <li>・屋内プールであるため天候に左右されにくいと、低水温等で営業中止になることがなかった。</li> <li>・昨年度ろ過機 1 機を更新し、本年度は残りの1 機を更新した。</li> <li>・7月10日には教職員・市教委職員・消防職員の、7月18日には小学5・6学年児童の水難防止教室を行った。</li> </ul>				
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水難事故防止のために監視業務が重要であり、夏休み期間中は常駐臨時職員の1名の他にボランティアによる監視補助員をつけているが、今後その人員確保が課題となる。</li> <li>・監視業務従事者（臨時職員）は変則勤務体制（2出2休）であり従事者を探すのが難しい。</li> <li>・本年度に実施できなかった水泳教室の再開</li> </ul>				
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内で唯一の水泳プールであり、子供たちが水に親しむ良い機会を提供していることから、必要な箇所の修繕や、事故・怪我のないように対応を行う。</li> <li>・施設の維持に最低限必要な事柄については、財政再生計画の変更も含め、必要な予算を確保する。</li> </ul>				
教育委員会の自己評価					
事業達成度	事業効果	小学生を中心に、多くの市民に水泳を楽しむ機会を提供することができた。また、小学校・幼稚園・保育園のプール授業に貢献することができた。 児童、教職員等の水難防止訓練の場としても、貢献することができた。			
B	B				

## 資 料

- ・平成 25 年度夕張市教育行政点検評価実施要綱・・・・・・・・・・・・ 51
- ・夕張市教育行政評価委員会設置要綱・・・・・・・・・・・・ 52
- ・夕張市教育行政評価委員会実施要領・・・・・・・・・・・・ 53
- ・夕張市教育行政評価委員会開催経過・・・・・・・・・・・・ 54
- ・平成 24 年度夕張市教育行政執行方針

## 平成 25 年度夕張市教育行政点検評価実施要綱

### (目的)

第 1 条 この要綱は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」(昭和 31 年法律第 162 号)の規定に基づき、夕張市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況を自ら点検評価することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民に対する説明責任を果たすために必要な事項を定めることを目的とする。

### (点検評価の対象)

第 2 条 平成 25 年度における点検評価の対象は、教育委員会所管の事務事業のうち、平成 24 年度に実施した主要な事業とし、その取り組み状況と成果について教育委員会が点検評価する。

- (1) 安全安心な通学体制の整備
- (2) 地域全体で学校を支える体制の充実
- (3) 小・中学校教育の充実
- (4) 学校施設設備の整備
- (5) 児童生徒の健康管理及び学校給食の充実
- (6) 幼稚園教育の充実
- (7) 文化振興
- (8) スポーツの振興

### (事業の達成度及び評価の判断基準)

第 3 条 事業の達成度及び効果の判断基準は次のとおりとする。

- (1) 達成度の判断基準
  - A 事業が十分達成された (達成度 9 割以上)
  - B 事業が相当程度達成された (達成度 7 割～8 割)
  - C 事業の達成度がやや不十分である (達成度 5 割～6 割)
  - D 事業が達成されなかった (達成度 5 割以下)
- (2) 効果の判断基準
  - A 十分な事業効果が得られた (9 割以上)
  - B 相当程度の事業効果が得られた (7 割～8 割)
  - C 事業効果がやや不十分である (5 割～6 割)
  - D 事業効果が不十分である (5 割以下)

### (点検評価表)

第 4 条 点検評価表の様式は別紙のとおりとし、教育委員会の評価は事業毎に担当者が自己評価し教育長が最終決定する。

### 附 則

この要綱は決定の日から施行する。



## 夕張市教育行政評価委員会設置要綱

### (設置)

第1条 夕張市教育委員会（以下「教育委員会」という。）は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第27条の規定に基づき、その権限に属する事務の管理及び執行状況についての点検及び評価に関し、客観性の確保と効果的な教育行政の推進を図るため、夕張市教育行政評価委員会（以下「評価委員会」という。）を置く。

### (所掌事務)

第2条 評価委員会の所掌事務は、次のとおりとする。

- (1) 教育委員会が行う事務事業の評価に関すること。
- (2) その他教育委員会が必要と認める事項に関すること。

### (組織)

第3条 評価委員会は、委員5人以内で組織する。

2 委員は、教育について優れた見識を有する者のうちから教育委員会が委嘱する。

### (任期)

第4条 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

### (委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選により選出する。

2 委員長は、会務を統括し、会議の議長となる。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

### (会議)

第6条 評価委員会の会議は、必要に応じて教育委員会が召集する。

2 評価委員会は、委員の半数が出席しなければ会議を開くことができない。

### (意見の聴取)

第7条 評価委員会は、必要があると認めるときは、関係者の出席を求めて意見又は説明を聞くことができる。

### (庶務)

第8条 評価委員会の庶務は教育課学校教育係において行う。

### (その他)

第9条 この要綱に定めるもののほか、評価委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が評価委員会に諮って定めるものとする。

## 附 則

この要綱は決定の日から施行する。

## 夕張市教育行政評価委員会実施要領

### 1 実施方法

前年度の教育行政執行方針等に掲げる取組み内容の達成状況及び進捗状況に対する教育委員会の自己評価について、次項の視点に基づき教育面での有効性の観点から評価判定と意見具申を行う。

### 2 評価の視点

- (1) 事業の妥当性
- (2) 客観的根拠に基づき自己評価しているか
- (3) 社会情勢に対応しているか

### 3 評価の区分

- A 順 調 (事業達成度 9 割以上)
- B ほぼ順調 (事業達成度 7 割～8 割)
- C 努力を要する (事業達成度 7 割以下)

### 4 点検評価表等の公表

夕張市教育行政点検評価表（自己評価調書）及び関係資料については、夕張市ホームページへの掲載等により随時公表する。

### 5 会議録記載事項

会議録に記載する事項は次のとおりとする。

- (1) 会議の日時及び場所
- (2) 出席者の氏名
- (3) 議題
- (4) 個々の発言内容の要旨
- (5) 発言者の氏名
- (6) その他委員長が必要と認める事項

### 夕張市教育行政評価委員会委員名簿

氏 名	役 職 等	備考
藤 原 哲	元夕張市監査委員	委員長
小 網 敏 男	夕張商工会議所専務理事	副委員長
菅 原 孔 道	大乘寺住職	
横 川 孝 一	夕張市社会福祉協議会会長	
白 井 啓 裕	夕張市校長会会長	

平成 25 年度第 1 回夕張市教育行政評価委員会議事録

10 月 8 日（火） 15:00  
夕張市役所教育委員室

※ 出席者 藤原委員・小網委員・菅原委員・横川委員・白井委員  
小林教育長・古村課長・武部主幹 ○進行 武部主幹

1. 開 会

2. 委嘱状交付

（教育長より全委員へ交付）

3. 教育長挨拶

教育行政評価委員として 5 名の皆様に委嘱状をお渡しし、向こう 2 年間お願いすることとなった。

前回に引き続いて 3 年目となるが、平成 24 年度は大きな学校統合から小学校は 2 年目、中学校では 3 年目となり、安心安全な通学体制の確保の問題、小中学生を地域全体で支える等組織を作りましたが、それがどうであったか、あるいは財政再生下にあり厳しい予算であっても教育条件整備等どれだけ努力したか。特に 24 年度は地域の方々のボランティアや組織の方の応援を非常に多くいただき教育行政を展開してきた。

このようなことを含め是非ご評価をいただき、次年度以降に繋がっていく形での評価検討をお願いし、忌憚のない意見を頂きたい。

4. 役員選出

- (1) 委員長（藤原 哲 様）
- (2) 副委員長（小網 敏男 様）

5. 委員及び事務局職員紹介

（各自） ※ 以降進行 藤原委員長

6. 報告事項

（古村課長説明 平成 25 年度教育行政の執行状況に関する点検評価報告書 51～53 ページ）

- (1) 平成 25 年度夕張市教育行政評価実施要綱
- (2) 夕張市教育行政評価委員会設置要綱
- (3) 夕張市教育行政評価委員会実施要領

## 7. 協 議

(古村課長・武部主幹説明)

### (1) 平成 25 年度夕張市教育行政点検評価表について

平成 24 年度教育行政執行方針を踏まえ、24 年度に行った市教育委員会の事業の内、8 項目（安全・安心な通学体制の整備、地域全体で学校を支える体制の充実、小・中学校教育の充実、学校施設設備の充実、児童生徒の健康管理及び学校給食の充実、幼稚園教育の充実、文化振興、スポーツの振興）について、各項目ごとに目的及び概要、主な事務事業名、予算決算額、事業実績及び効果、課題、今後の方向性、事業達成度及び事業効果の自己評価について（資料 4 ページ～49 ページにより）説明した。

### (2) 評価の進め方について

8 項目を各委員で分担し案を提出いただき、全体で討議し評価委員会の評価判定と意見具申を行い、点検評価表（総括表）を完成させる。

- ・白井委員 → (1) 安全・安心な通学体制の整備、(3) 小・中学校教育の充実
- ・横川委員 → (2) 地域全体で学校を支える体制の充実
- ・菅原委員 → (6) 幼稚園教育の充実
- ・小網委員 → (7) 文化振興、(8) スポーツの振興
- ・藤原委員 → (4) 学校施設設備の充実、(5) 児童生徒の健康管理及び学校給食の充実

### (3) 今後のスケジュールについて

議会に報告書を提出し、同時に夕張市ホームページで市民の皆様に公表したいと考えている。

次回委員会で評価委員会の評価判定と意見具申の協議を行う。

3 回目の委員会ではまとめと最終確認を行い確定する。

- ・第 2 回委員会 10 月 29 日（火）午後 3 時
- ・第 3 回委員会 11 月 12 日（火）午後 3 時

### (4) その他

各委員が担当した評価と意見の素案については、第 2 回目の委員会前の 10 月 23 日まで事務局にお届け願いたい。

(質疑)

- ・なし

## 8. 閉 会

10 月 29 日（火） 15:30

夕張市役所教育委員室

※ 出席者 藤原委員長・小網副委員長・菅原委員・横川委員・白井委員

古村課長・武部主幹

○進行 藤原委員長

## 1. 開 会

## 2. 協 議（事務局説明）

### （1） 評価委員会評価及び意見について 別紙

第 1 回評価委員会において各委員で分担した評価項目について、全体での協議を行った。

#### ● 1 安全安心な通学体制の整備（白井委員）

白井委員：バス通学について、地域からバス停の位置や歩道、除排雪のこと等、子どもの安全確保ができないという意見がある。昨年度整備していただいた地域があるので計画的に整備ができれば益々安全安心な体制になっていくのではと思う。

スクールバスの校外活動での使用について、昨年度も対応いただいたが、さらにもう少し柔軟に運用していただけるとありがたい。

事務局：再生団体という予算のない中、できることをやっているつもりではあるがこのような意見もあるので今後に生かしたいと考えている。

スクールバスの関係については基本通学に使うものであるが、校外活動での使用は、予算や燃料費の高騰、消費税の増税等厳しい状況にあることを理解願いたい。

要請については行っているが、今後も行っていく。

評価：B

#### ● 2 地域全体で学校を支える体制の充実（横川委員）

横川委員：父兄から聞いたのだが、中学校内の学力の格差がかなりあるようだ。

放課後学習会のようなものがあれば良い。教員は少ないし、バス時間の関係等色々あるが、普段の日ができなければ夏、冬休みに時間を取ってやっていただけなのであればありがたいという声もある。

表面上には出ていないが、学校の中で多少のいじめがあると聞いた。



この他、学校支援ボランティアの高齢化により、今後安全に見守りを行っていきけるかが心配である。

藤原委員長：いじめといじめによる不登校の問題について、実態把握、対策指導が学校と教育委員会間の中でさらに連携を取って行う必要があるのではないかと思う。

白井委員：学力の問題は喫緊の課題であるが、夏、冬休みの学習は遠くから来る子どもの足を確保することが厳しい。学校で行うだけではなく地域に入っていくことも考えているが、地域とのコンタクトがうまくとれないという課題もある。

いじめの件については年3回調査するとともに、教育相談という子どもの生の声を聞くということを常に行っている。学校としてはいじめ問題はないですよということはあるまいだろうと思いつつ子どもと対話していることから、下手に隠すということはない。春先の調査では1件あったので、継続して見ながら指導を十分に重ねて行っている。

横川委員：いじめの線引きもかなり難しいと思う。言葉のいじめや手を出さないいじめもあるだろうし、先生方も非常に大変だと思うが、そのような空気が読めるのであれば早めに手を打つようお願いしたい。

藤原委員長：学校支援地域本部事業で2年前位に中学校の放課後学習について行っていた。放課後の学習会については私のような退職教員に過去要請があったこともあり、今後も要請があれば退職教員の会に諮り実施できればと考えている。

菅原委員：高校問題について、現在1間口であるとおそらく今後統廃合の話になる。私も以前学校統廃合の配置の委員をやっていたが、空知管内でも統廃合の話が出ている。短期の目で見えていかないとならないと思う。

事務局：平成24年度末から夕張高等学校対策委員会を立ち上げ、数回会議を開いており、道教委にも夕張の現状を話しながら間口の確保等要請を行っている。道教委も本市の現状を理解しており、当面学校をなくすことはないというような話をいただいているところ。ただ、地域キャンパス校的なことも考え方として持っていると思われる。

評価：B

### ●3 小・中学校教育の充実（白井委員）

白井委員：就学指導について少し問題があると思うのは、子どもの様子を親が正確に理解していない。支援計画を作成するよう言われているが、どのような支援が必要なのかみんなが同じ意識で使えるようなものをなかなか作成されていないので、小さい時からみんなで高め合っていくことを「ことばの教室」を運営しているうちにしっかり充実させていく必要が

あるのではないかと思う。支援介助員の増員については知的、情緒、病弱というのがあるが、先生の数が決まっているのでなかなか厳しい状況にあることから増員をお願いしている。

災害、異常気象警報、特別警報の対応については学校だけではなく、保護者、地域もかかわってくると思うので連携が見えるような整備をしていく必要があると思う。想定外が出てきている状況もある。

横川委員：夕張の避難所には廃校舎等が入っており、冬や夜中に使えないという状況のところがある。教育委員会だけの問題ではないが、行政全体としての対応が必要である。

小網副委員長：避難の方法等もわかりやすくしていく必要があると思う。町内会長等にも避難訓練をやっていることを情報提供した方が良いと思う。

評価：B

● 4 学校施設設備の整備（藤原委員長）

白井委員：学校施設（ドア等）が壊れてきている。計画的な修繕をお願いしたい。

事務局：小学校は統合になってから2年が経過し、統合時大規模改修を行っていることもあり何年かは修繕の予算が厳しい状況にある。しかし、このままということにはならないので、ある程度年数が経った段階で修繕料を増額し対応していこうと考えている。

評価：B

● 5 児童生徒の健康管理及び学校給食の充実（藤原委員長）

白井委員：事故等なく行っている。ただ、安心完全の観点から計画的な備品の更新についてもよろしくお願いしたい。

評価：B

● 6 幼稚園教育の充実（菅原委員）

菅原委員：幼稚園よりも保育園児の方が多いと思うが、園児の確保等幼稚園と保育園とが互いに連携しあってはどうかと思う。

事務局：子どもが減っていることや幼稚園に関しては施設の老朽化の問題もある。幼稚園は来年度耐震診断することもあるが、その後の対応というものも出てくる。また、今後幼保一元化や認定こども園等過去には話し合われたこともあるが、コンパクトシティ構想にも関わる部分もあるので、市のまちづくり企画室、生活福祉課そして教育委員会等の関係課で協議を行っていきたいと考えている。

評価：B

● 7 文化振興（小網副委員長）

小網副委員長：社会教育の予算がない中でこれだけのことを行っている。地域ボランティアの活動を含め高く評価したい。公民館事業としての参加が多く、参加者がいきいきとしている。夕張ならではの芸術文化も継続して大事にしてほしい。まだまだ地域資源の発掘ができるのではないかと思われる。お年寄りの方もいろいろ知っているので「語り部」的なことを行っていただいたり、文化振興を進めていくのも良いと思う。

評価：A

● 8 スポーツの振興（小網副委員長）

小網副委員長：施設の維持管理について、平和運動公園の芝については市民の宝であり行政やボランティアの方々の協力も含めて守っていくことが大事。

評価：B

各項目の評価については、協議の結果を踏まえ、事務局で整理し最終的な評価と意見のまとめとする。

(2) 評価委員会の総評について

評価委員会として教育全体に関わるまとめの文章については、各委員からの総括的な意見を頂き、それを事務局が取りまとめる形で総評とする。

白井委員：保育園との関係等、横の連携について、幼稚園と小学校は交流しているが、なかなか保育園とはできていないということもあるので、垣根なく進めていけるようなことを検討していく余地があるかと思う。また、全体的な話として、今は苦しいが、先に光があるようなことがあれば今我慢できるということになるのではと思う。

藤原委員：財政の非常に厳しい中、職員も少ない中で工夫しながら教育行政を進めていることを評価したい。

(3) 今後のスケジュールについて

各項目別の委員会評価と意見については、本日の協議内容を踏まえ、総括的な文章の原案を作成し、皆様にお示しいたしたい。第3回の委員会が最終的な委員会になると思う。第3回委員会は11月12日（火）午後3時30分から開催する。

なお、本件は定例教育委員会において協議決定し、市のホームページ等に掲載し市民に周知するとともに、議会に報告書を提出する予定。

(4) その他 （意見なし）

3 閉 会

平成 25 年度 第 3 回夕張市教育行政評価委員会議事録

11 月 12 日（火） 15:30

夕張市役所教育委員室

※ 出席者 藤原委員長・横川委員・白井委員 （小網副委員長・菅原委員欠席）  
古村課長・武部主幹 ○進行 藤原委員長

1. 開 会

2. 教育長挨拶

（教育長出張中のためメッセージを読み上げ）

お忙しい中お集まり頂きありがとうございます。

本日は平成24年度教育委員会事業に対する第3回目の評価委員会であり、これまでご議論いただいた事のまとめということになりますが、この間の皆様のご苦勞に対し改めて感謝申し上げます。

平成24年度は、学校教育では小・中学校が各1校となり、清水沢地区に幼稚園から高校までの体制ができた中で、新しい学校づくりに取り組んだ年でありました。

教育委員会としては、それぞれの学校を地域全体で支援していくため平成23年9月に夕張市小・中学校サポート会議を、平成24年11月には夕張市高等学校対策委員会を立ち上げたところであります。

また社会教育の分野では予算がない中、美術館にかかわる収蔵品の整理や、文化スポーツセンターのワックス掛けなど、今後に向けた取り組みを行ってきたほか、明るい話題といたしましては、旧森林鉄道の「三弦橋」を含む「夕張シューパロダム湖周辺の橋梁群とその景観」を市の指定文化財としたところであります。

学校教育、社会教育との様々な問題を抱えておりますが、これまで評価委員の皆様にごいただいた内容をかみしめながら、今後の教育行政の執行に役立ててまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。

誠にありがとうございました。

3. 協議事項（古村課長説明）

（1）評価委員会意見の一部修正について

前回の委員会において意見の追加があった部分について文言の修正等をした。

○報告書4ページ 1 安全安心な通学体制の整備

- ・通学の安全確保のため、バス停の位置や歩道の整備、信号機などの設置について、引き続き関係機関に要請する必要がある。特に冬は除排雪の関係で子どもの安全が確保できないとの声もあり、今後計画的に行っていただければ益々安全安心な体制になると考える。

○報告書10ページ 2 地域全体で学校を支える体制の充実

- ・子ども間の学力の差が非常にあるとの話も聞くことがあり、喫緊の課題であると考え。放課後学習会のようなものがあれば良い。バス時間帯により放課後が厳しい状況であれば、夏、冬休みなどに実施できないかなど、子どもたちの足の確保も含め検討する必要があるのではないか。
- ・人口減、高齢化により学校支援ボランティアの確保が今後危惧される。地域、学校、教育委員会がもっと情報の共有化を図る必要があるのではないか。
- ・「いじめ」の問題については学校も努力していると思うが、実態把握、対策指導について学校と教育委員会の連携が必要であり、早期発見、早期対応が必要である。
- ・子どもの数が減少しているが、将来を担う子どもたちのため、夕張高校の廃校問題が起きる前に市民一丸となって危機感を持ち考える必要がある。

○報告書14ページ 3 小・中学校教育の充実

- ・ことばの教室（母子通園センター）の機能を十分に発揮し、子どもの様子を親が正確に抑えていないことへの正しい就学指導の充実を図る必要があり、市内的な取り組み、支援計画の整備、充実が求められる。
- ・災害時における避難訓練や防災教育はこれまで以上に必要性を増している。併せて、異常気象警報などに対する対応などについては教育委員会だけではなく、行政全体で十分に検証することが大切である。

○報告書26ページ 4 学校施設設備の整備

- ・特別支援学級運営に関連して、中学校の重度な肢体不自由児が交流学級で授業を受ける場合、自動昇降機による移動は教職員の負担と安全面から問題がある。早急なバリアフリー化が必要である。また自動昇降機のメンテナンスについても継続して行ってほしい。

○報告書31ページ 5 児童生徒の健康管理及び学校給食の充実

- ・安全安心の観点から、計画的な備品の購入が必要と思われる。



○報告書37ページ 7 文化振興

- ・文化振興は、地域活性化のバロメーターであり地域に住む住民がいつでもだれでも気軽に参画できる生涯学習社会づくりに寄与し、文化の香り高い夕張の魅力を更に高めることになるのではないかと。社会教育予算のない中、ボランティアの方々を含めてこれだけの行事を行っていることは高く評価したい。

各事業項目別の判定評価は、この修正を踏まえ、本委員会としての最終意見とする。  
(質問、意見なし)

(2) 評価委員会のまとめ(案)について

評価委員会のまとめの文章については、前回各委員から出されたご意見を基に、原案を作成。(3ページ 5を読み上げ)

評価委員会の全体のまとめについてはこの原案をもって決定。

(3) その他

本件については、直近の定例教育委員会において提案し了解をいただければ議会への提出を行い、12月1日に市のホームページに掲載する予定。

なお、広報ゆうばり12月号に評価報告書ができた旨ホームページへの掲載及び市教育委員会及び南支所に報告書を1部ずつ置き市民への公表していることを掲載する予定。

4. 閉 会

平成 24 年度

教育行政執行方針

平成 24 年 3 月 9 日

平成 24 年度の教育行政執行方針をご審議いただくにあたり、その大綱を申し上げ、市議会並びに市民の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

教育基本法は、「教育は人格の完成をめざし、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた、心身ともに健康な国民の育成にある」とその目的を指し示しており、教育の基本理念を明確にしているところであります。

これらの理念を踏まえ、市民の信頼と期待に応えるために必要な教育環境の整備を図り、教育の質を高めていくことは極めて重要であります。

少子高齢化の進行による地域人口の減少、地域社会の変化など厳しい状況にあっても、地域の暖かい眼差しの中で、夕張の未来を担う子供たちが人間性豊かで創造性にあふれ、心身ともにたくましく成長していくよう取り組むとともに、夕張市民一人ひとりが生涯にわたって文化やスポーツに親しみ、学習し、生きがいを持って生活できる生涯学習社会を展望し教育行政の執行に努力してまいります。

### 新しい学校づくりの推進

「自然豊かな緑の大地と炭鉱（やま）の歴史、そこに住む市民の苦闘の歴史により築かれた郷土「夕張」に誇りをもち、自主・自立の精神に満ち溢れ、心豊かに共に支えあい、夢や希望に向かって逞しく生きる人を育む」ことを基本理念としながら、小・中一校体制のもと、地域との連携、地域の方々との協働を通して、夕張ならではの新しい学校づくりを進めてまいります。

第一には、学校が地域住民の考えを把握し、学校運営に反映させたり、地域の協力を得て学校を運営することを目的に立ち上げた「夕張市小・中学校サポート会議」の機能を十分に活用し、地域に開かれた学校を基盤として、地域の特性や課題をもとに、生きる力と心のふれあいを育むことのできる教育をめざします。また、教育活動の成果を診断・評価する「学校評価」をもとに、その結果をPTA諸会議や学校だよりなどを通して保護者・地域に公表し、ご意見をいただく中で特色ある学校づくりに取り組んでまいります。

第二には、地域の教育力を活性化するため、「学校支援地域本部事業」の充実をはかり、夕張市全体で学校教育を支援する地域に開かれた学校づくりを推進してまいります。

第三には、幼・小・中・高校間の連携を深めるため、「夕張市学校連携協議会」を通して、共に夕張の子どもたちを育てるという視点に立ち、地域の人々の期待と信頼に応える教育活動の充実を努めてまいります。また、学ぶことに楽しさや成就感をもち、基礎的な力を確実に定着させる学習指導を行うとともに、体験的な学習、地域の自然・社会の素材を活用した学習や総合的学習の時間の充実をはかります。

小学校にあっては、児童の学習・学力の向上をはかるため、十分な調査・分析をもとに個々の児童の状況を把握し、学習した内容が確実に身に着くよう取り組みを進めるとともに、学校支援ボランティアや学生ボランティアなどとも連携し、児童の学力・体力の向上に努めてまいります。

中学校においては、千歳市並びに栗山町と連携し、デジタル教材やeラーニングシステムを理科のほか、複数教科における授業での活用に取り

り組んでまいります。

特別な支援を必要とする生徒一人ひとりに対し、きめ細やかな指導を行うため、小学校で高い教育効果をあげている特別支援教育支援員を中学校に配置いたします。また、外国語指導助手（ALT）を活用した中学校での外国語活動の充実と、小学校における国際理解教育・外国語活動の推進に努めてまいります。

読書活動につきましては、児童生徒が、より豊かに生きるために大切であることから、学校や家庭で読書に親しむ機会を増やすよう努めるとともに、図書コーナーと学校図書館との連携や巡回文庫の充実など、読むことに対する興味・関心を高めるための取り組みを進めてまいります。

生徒指導につきましては、子ども達が明るく、元気に学校生活を送れるように、教職員が一体となり、児童生徒の悩みや苦しみの早期発見、早期対応のために、定期的な相談日の設定や、日々コミュニケーションを深める体制を築くとともに、行政・学校・家庭・地域と連携し情報の共有と専門性の活用をはかり、いじめや不登校の未然防止など、生徒指導の課題解決に努めてまいります。

教材・教具、備品等の整備や校舎等の維持補修など教育環境整備につきましては、財政再生計画を進めていく中で、児童生徒の学習活動に支障がないよう努めてまいります。

児童生徒の健康と安全指導につきましては、夕張中学校体育館の抜本的な落雪対策を行うほか、生命の尊さ、体力の向上、運動能力の助長や



健康で安全な生活を営む能力を育成するため、武道も含め体育授業の充実、学校安全並びに交通安全指導の推進について、地域・関係団体とも連携を深めてまいります。

児童生徒の通学につきましては、交通安全に関わる施設設備や、ICTを活用した取り組みなど、ハード・ソフト両面における対策の充実をはかるとともに、市内各地域に結成されている自主防犯組織などとも連携し、児童生徒が安全・安心に通学できる体制を地域ぐるみで進めてまいります。また、通学に関わる新たな課題などにつきましては、関係者で構成する「夕張市通学方法等検討委員会」において、情報の共有と十分な検討を行い、児童生徒と保護者の目線に立って適切に対応してまいります。

特別支援教育につきましては、対象児童生徒の宿泊学習を実施するなど、社会とのさまざまな交流の場を設けるとともに、「夕張市特別支援教育連携協議会」を活用し、指導の充実に努めてまいります。

学校保健につきましては、引き続き学校・保健所など関係機関と緊密に連携し、インフルエンザなど感染症の予防対策に努めてまいります。

学校給食につきましては、安全な食材を使用し、児童生徒の発達段階に即した献立の充実など、自校方式の利点を最大限に生かし、子ども達に喜ばれる給食を提供してまいります。また、食に対する指導計画・実践を通して食育の充実を図るとともに、保健所など関係機関と緊密に連

携し、食中毒など給食事故を防止し、安全で安心な学校給食を提供してまいります。

これら学校教育の充実のため、教職員が自らの使命と専門性を高めることの意義をふまえ、児童・生徒の学力向上に向け、日常の教育実践や工夫を積極的に行うとともに、学校内外における授業研究と共同研究の推進、その公開等、研究・研修の充実をはかり、教職員の資質向上に努めてまいります。また、教職員の校務処理の効率化と負担軽減を図り、子どもたちと向き合う時間をより一層確保するため、小中学校に校務用パソコンの配置を進めてまいります。

教職員人事につきましては、学校統合による激変緩和措置及び、学級編制基準や定数増の改善等を北海道教育委員会に要請するなどして、職員配置の適正化をはかってまいります。

教職員の健康管理では、生活習慣病や心の病の未然防止に努めるとともに、早期発見のための検査等を積極的に進め、疾病の早期治療を働きかけてまいります。

ユーパロ幼稚園につきましては、地域の保育園、学校、福祉施設などとの交流を通し、様々な人々との触れ合い体験による社会性の育成や、「英語で遊ぶ」「自然に学ぶ」など「学び」と「遊び」を中心とした教育課程の充実を図るなど、魅力ある幼稚園づくりを通じ、引き続き園児の確保に努めてまいります。

当市における中学生の減少は今後も続くものと推計されることから、夕張市における後期中等教育の将来的なあり方と、高校の存続について、「夕張市高校対策委員会」の設置など広く関係者の意見を聞く中で、検討協議を進めてまいります。

### 心豊かな人と文化を育む生涯学習社会の推進

生涯学習の推進につきましては、策定した第5次社会教育中期計画の基本理念と方針に基づき、生涯学習の観点に立った社会教育行政をとり進めてまいります。

市民が心身ともに豊かで、健やかな、潤いのある生活を営むために社会教育が果たす役割は大きなものがあり、文化団体・体育団体・各種の市民団体やサークルなどとの連携をはかり、その活動を支援し、文化・芸術の振興に努めてまいります。

社会教育の対象は幼児から高齢者まで極めて幅広く、そのニーズも多種多様なものがあります。しかしながら、財政再生における厳しい状況の下にあっても、そのニーズに応えることもまた、教育行政に求められているところです。

生涯学習関係の市民グループや北海道教育大学岩見沢校との継続的な支援・協力による学習機会の提供などの取り組みを推進してまいります。

青少年教育につきましては、全市横断的な子どもとの交流を促すなかで、社会的ルールや自主性を身につけ、思いやりの心を育てていくことが重

要であると考えており、家庭や関係団体などとも連携しながら、その充実に努めてまいります。

また、児童・生徒に対し、生の舞台芸術など優れた芸術作品に接する機会を設けることにより、子どもたちの豊かな情操を育むため芸術鑑賞事業の充実をはかるとともに、全市の児童生徒と市民文化グループとが協働で開催する音楽発表会の充実に努め、新たな市民文化の創造をはかってまいります。

高齢者教育につきましては、引き続き「もも倶楽部（高齢者学級）」を開設し、生きがいや健康をテーマに、保健行政など関係機関とも連携して、講座の充実に努めてまいります。

文化財の保護・活用につきましては、貴重な動植物が生息する夕張岳の自然環境を守る活動、夕張の歴史を語る建造物や資料を守る活動などを関係行政機関や市民団体と連携して情報の発信、啓発活動などに取り組んでまいります。また、小中学校においては、郷土学習を通して炭鉱の歴史などについて学ぶ機会を推進するとともに、夕張中学校に整備した「ゆうばり歴史・教育資料室」については、引き続き広く市民の皆様などに公開してまいります。

「図書コーナー」につきましては、市民の身近な学習施設であることから、蔵書の充実に努めるとともに、図書貸出業務のほか、図書まつりの開催、読み聞かせ活動、巡回文庫、道立図書館の協力事業などを市民ボランティア組織などの協力をいただきながら、市民・子どもたちのた

めの読書活動を推進いたします。また、インターネットによる図書検索システムを活用し、道立図書館等との連携強化、運営の効率化、利用者の利便性の向上をはかってまいります。清水沢地区公民館での図書の貸出しについては、配置図書数の増に努め、利用者の利便性の向上と運営の充実をはかってまいります。

「美術館」につきましては、被害状況を調査中ではありますが、関係団体等と十分に協議し、今後のあり方や収蔵品等の活用について検討を進めてまいります。

文化スポーツセンター、テニスコート、平和運動公園、清水沢プールについては、市民の利用にとどまらず、市外のスポーツ愛好家も利用する貴重な体育施設でもあることから、利用者への利便性を考慮し必要な整備を行うとともに、創意工夫を重ね管理運営を行ってまいります。また、東京都との連携などによる施設利用の拡大を図るとともに、ネーミングライツによる新たな財源確保に努め、子どもからお年寄りまで、気軽に楽しくスポーツに親しむことができる施設運営を進めてまいります。

指定管理などにより運営されている市民健康会館、南部市民体育館、市営球場、紅葉山パークゴルフ場、夕張岳ヒュッテにつきましては、地域の貴重な体育施設であることから、引き続き指定管理者などと連携し、運営の円滑化と利用促進をはかってまいります。また、これら施設において開催されるスポーツ大会・イベント等の実施にあたっては、主催者や各種競技団体との連携をはかりながら、必要な支援協力を行うなど、



体育・スポーツの振興と施設の有効活用を推進してまいります。

教育委員会といたしましては、どんな厳しい状況下にあっても、故郷夕張の自然・歴史や風土の上に立って、新しい社会の変化に柔軟に対応しながら、力強く、心豊かに生きていく子どもたちを育てること、そして夕張市民が文化・芸術・スポーツに触れ、様々な活動を通して学習し、毎日の生活を健康で明るく楽しめるよう努力してまいります。

以上、平成 24 年度の教育行政執行方針について、その概要を申し上げますが、市民の付託に応える教育の推進に誠心誠意努めてまいりますので、市議会並びに市民各位の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。